

家庭・保育所・幼稚園

幼児の教育

第五十四卷 第一號



トツパン独特の人形による童話劇!!

総天然色 人形絵本



厚くて丈夫な
貼合せ絵本 各100円

- (6) (5) (4) (3) (2) (1)
- あかずきんちゃん
じゃつくとまめのき
ぴーたーとおおかみ
三びきのくま
三びきのこぶた
ぷーぼんせんせいの
あふりかたんけん

トツパンの絵本はフレール館または代理店にてお取次ぎいたしております。

週刊朝日評より——これは普通の絵本のさし絵と違い、一つ一つが厚みと興行きを持って立体的に視覚に訴えてくる……おそらく幼児の絵本としてもっとも優れたものであり、試みとしてはユニークなものだといえることができよう。

トツパン 東京日本橋茅場町1の20・振替東京41647

新 刊 御 案 内



子 供 讚 歌

倉橋惣三著 B6 234 頁予価 260円

インドのお話集 あわてうさぎ

内山憲尚著 A5 176頁 定価 220円

幼児劇集 はるのひよこ

村上幸雄編 A5 172頁 定価 230円

倉橋先生の永年に亘る美しい児童観。両親は勿論教育者必読の書。

仏典を基に書かれた十七の童話面白くてためになる教材用童話集

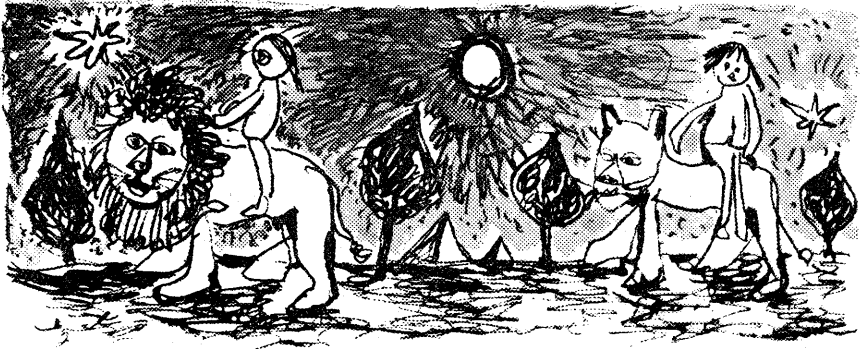
斎田喬氏等七氏執筆の創意にみちた画期的な幼児劇集。諸家絶讃。



株式
会社

フレール館

東京都千代田区神田小川町2ノ5 電話東京(29)7781~7785 振替東京 19640



目 次

表 紙 鈴木信太郎

新しき年を迎えるにあたって……………倉 橋 惣 三…2

児童文化のために……………牛 島 義 友…4

☆園児の夢を追つて☆……………高 間 富 子…8

確かに希望がある……………武 南 高 志…12

実際保育に当つて一年……………上 山 照 子…16
定 方 と く…19

よい教育でよい研究を……………三 木 安 正…22

▷冬の衣服に就いて◁……………松 川 哲 哉…25

沖 繩 の 旗……………松 村 康 平…30

米国における幼児教育協会全国大会に参加して
黒 田 成 子…34

幼稚園教育要領(案)とその問題……………宮 内 孝…38

▷幼児の冬期に於ける健康について◁
竹 村 一…40

フレーベル以後の幼稚園(1)……………津 守 真…45

編集主幹
協力委員

多 牛 倉
田 島 橋
鉄 義 惣
雄 女 三

波 及
田 川
野 ふ
完 治
み

山 齋
下 藤
俊 文
郎 雄



新しき年を 迎えるにあたって

倉 橋 惣 三

根本考察が足りない。根本考察が足りないから、問題がいつでも枝葉のところを動いている。かなりいろいろのことが考えられ、試みられ、部分的に究明されるにもかかわらず、意極の決定はいつまでも残されている。——我國の幼稚園教育界は、こんなふうにして一年一年過ぎていくのではあるまいか。時の経過はなほどかずつの進歩を積み上げていくには相違ない。しかしその進歩は、あまりに気まぐれな、無秩序な、断片的な集積にすぎないものであって、そこに何等の系統的組織的進歩というものを見ない。思えばあまりに非学問的なことである。

思いつきは、時には非常に賢明な真理の発見者である。しかしまた、非常に危険な誘惑者である。思いつきは偶然の方で我々をその一点にひきつける。それだけに、全局の関係を忘れさせ、前後の関係を失わせる。

それはそれだ。しかし、それは全体の中のそれだ。拠のある基礎の上に位置すべきものでなければならぬ。思いつきはこの明白な事実を没却させるほどに我々の心を部分的に興奮させる。——我國の幼稚園教育界に、またしてもこの思いつきの多いことである。

○ 意味の分らない模倣や雷同や。おなじく意味のない反対や批難や。こんなことの繰り返しの中に我國の幼稚園教育界は、あまりに無意味に疲れている。風に吹きまわされて、ぐらぐらと東西南北をまわりつかれているのでなければ、たゞ無意味に風に逆って疲れている結果は、つまり、どっちもくだらないことに倦き倦きしてしまわざるを得まい。意味のないところに厭倦がある。根のないところに枯死がある。

○ 『分らない！』『分らない？』『我國の幼稚園界は、あまりに平気に、口癖のように『分らない』を繰り返している。一年たっても、三年たっても、五年たっても、おなじ『分らない』に立ち止まっている。中には、何がいかに分らないかをも知らずに、たゞ『分らない』でいる悲しい楽道家もある。それでいつになつて分つて来るであろうか。つまりは『分らない』が、ますます平気になるばかりかも知れない。

○ 分つているという。その多数は、『このごろ疑いがなくなつた』人である。或は、小さい枝葉の一局部に安住停立して、そこに、幼稚園教育問題の全部を懸け、また自分の全部を懸ける人であつたりする。これもひとつの悟りの開きかたかは知らぬ。しかし幼稚園教育を根本的に考えている人ではない。

○ 私の幼児教育に関する考えは三十年前も現在も根本的には變つていない。基本的真理は時代の変化にかかわらず真理である。



児童文化のために

牛 島 義 友

終戦後約十年、日本の児童文化も漸く之に復し、否戦前以上の水準に達したのも少くない。

玩具の輸出も輸出品中第二位を占めるまでに伸びたし、質においても安からう悪からうの域を脱して信用を取戻しているようである。絵本や絵雑誌も高い水準に達した。少くも一流絵雑誌、絵本は外国の何処に出してもそれほど恥かしくない。元来月々絵雑誌が発行されるのは外国には余り例がないらしく、この機構のお蔭で月々多くの画家を動員し日本特有の童画家を育てあげてきた。昨日も小学館の児童文化賞授与式に参列したが、永年闘病生活をしながらも優れた特有な画

風で子供の絵を描いていた茂田井武氏が授賞されたが、初山滋氏、武井武雄氏その他のベテランは世界にも類の少い存在ではなからうか。

即ち一流のメーカーや大出版社が作っている文化財は相当に高い水準に達しているといえよう。しかしここに問題がないわけではない。むしろマンネリズムや人気作者への集中、模倣的傾向などの問題がある。文化財製作担当者達は絶えず企劃に新鮮味を加え細かな訂正を加えながらその育成に努力している。しかし大局から見れば相も変わらず同じような物が出されているというような印象を与える。これは企業が余りに大きくなったために、根本的な編集方針の改革や冒險的企劃が出来なくなったためである。発行部数が多いだけに一回

の失敗は取りかえしのつかない損失を招く危険がある。従つて執筆画家なども新人を登用する事が非常に困難になつてくる。物語の作者にしても、或いはラジオの出演者にしてもスターを育てるといふよりもスターを利用する事に夢中になる。これは一番安全な方法であるが同時に水準以上に伸びる事の出来ない行き詰りの原因ともなる。或いは何処かで成功した企劃や新案の玩具やラジオのプロは直ぐ他から真似られる。

このように一流の文化財は或る程度に水準には達しているが行き詰りの現象を示している。反面夜店や田舎の駄菓子屋などにはいかかわしい漫画本や俗悪な絵本や粗末な玩具、不衛生な食品玩具、射倖心をそゝる当てもののみが並べられている。日本の児童文化財には上層と下層の階級的対立が表われている。これらの下層な児童文化はその取り締りも困難なほど多数の零細業者によつて供給されている。

このようないかがわしい不良な文化財に対しては取り締りの強化が望ましい。言論出版の自由はあつても、子供に害悪を加えたり、健全な成長をそこなう自由であるのではない。むしろ子供を守るために取り締りの徹底が望ましい。先般児童文化協議会に、この点が話題になつた時にその取り締りは政府の立場であるのか、或いは日教組などの立場からするのかとの反問をする人がいた。たしかに大人の文化財に対

しては下手な取り締りは言論の圧迫、人権侵害になる危険がある。しかし児童を対象とした文化財の取り締りにおいてはこのような思想性は余りないはずである。自由主義の立場においても社会主義の立場においても不衛生な玩具や、射倖心のみをそゝる当てもの、粗悪有害な玩具、俗悪な漫画本、余りにも荒唐無稽な非科学的なもの、安価な感傷性のみあつて健全な家族関係、人間関係を破壊する小説、性的早熟を刺戟するような作品などが承認される筈はない。子供の心身の安全に対しては親たちがその保護に夢中になつてゐるが、社会でもまた子供を守る必要がある。成長していく子供は到底家庭だけでは守り通しえない。

しかし小物玩具や食品玩具や漫画や低級絵本などが汎濫するのはそれが安くて面白いからである。この点に関しては一流の業者や出版者たちも反省する必要がある。小資本の企業から生産されるものの方が安いという事は理窟に合わないことである。資本主義の精神からいつても大資本の製品の方が安価でよりよいものになる筈である。大出版社が小出版社に価格の点において競争に負ける事は理に合わない。そこで絵本についていえば大出版者の反省を求めたい。その資本を利用して優秀な画家に優れた絵本を描いてもらいそれを大量に安価に流すことによつて俗悪な絵本を追放してほしい。経費を節減するためならば或いはすでに絵雑誌で印刷した物の中か

ら優秀な絵だけを取り出し編集しなおしたものでもよい。紙質を少し落してもよいから夜店に出ている絵本よりも安い価格で全国普及版絵本を作つてほしい。玩具などではこのような大資本による大量生産には隘路も多いと思うが、出版文化にはかゝる方法が可能なのではなからうか。

一方小企業の文化財生産者達はその獨創性と専門性において特色を發揮してほしい。大企業では到底發揮できない獨創的企劃と子供の個性的趣味にかなつた特色を持つた文化財を生産することによつて大企業に対抗していつてほしい。先般本誌で紹介された大型の動物人形などは大量に生産されているものではなく、敬虔な修道尼たちが注文に応じて心をこめて作つてくれるものであるがこのような獨創的な個性をもつた優秀な物が方々において工夫されるならば、小資本の業者でも大資本以上の文化財貢献者となりうるであらう。

二

優秀な文化財というと精巧なゼンマイ仕掛の美しい玩具だとか、立派な絵本、読物、或いは衣裳や製作に莫大な費用を使った劇や放送プロなどを直ぐ考へる傾向があるが、子供のために資本と技術を使つて生産したものだけでなく、親や保母や或いは子供自身が作り出すものもまた立派な児童文化財である。先般お茶の水女子大で保育のワークショップが行わ

れた際に保母さんたちの工夫した教具や玩具が多数陳列されていた。その中で川口の幼稚園から出品された大変優秀な玩具が目についた。川口の市は鑄物工業の盛な所であるが、この鑄物を作る木の枠が廢品として沢山出てくる。この廢材はたゞ燃料として燃しているが、この幼稚園の保母さんはこれに目をつけて面白い玩具を作られた。この木型の断片には、実際にいろいろな千種万様な形の木片が使われる。製作される鑄物の形体に応じて種々の木片が必要になるらしい。これらの木片は一つ一つが形が違つていただけに皆何かに見えるようなものである。机の脚にもなるし、人間の帽子にも手にも足にもなるような形をしている。しかも一度強力に熱を受けているせいか特有な渋い褐色の色をしているので、そのまま寄せ集めたゞけで面白い玩具が出来る。ふつうの積木以上によい材料となつてゐる。この材料で作られるものは一定の形の物ではなく、絶えず工夫された一つ一つが違つた形となる。このようにして作られた玩具も大変よいものであるが、子供自身が作れば一層よい教育的な玩具となる。この鑄物の木型を払い下げてもらつてそれを各幼稚園に分けるような仕事をしてはと話し合つたものである。

木の葉や笹などを使つた自然物利用の玩具が優れている事は保育者の常識となつてゐる。笹の葉で舟を折つてそれを流れて流してしまうのもその瞬間における子供の遊びとしては

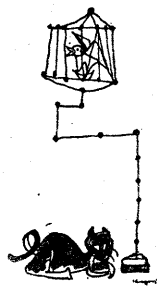
大麥面白いものである。しかしこのような物は兎角一匹きりで流してしまうとか捨て、しまうもので長く保存して楽しむような事は困難である、否、その場その場で作つて暫らく楽しんで明日はまた新しい玩具を作るところに自然物玩具のよい点があるのかもしれない。しなびた葉っぱ、変色した茄子の房などは子供の生活にふさわしくない。

しかし折角子供が心をこめて作つたものであるから一回だけで流してしまうよりはもう少し長く、せめて一月位遊び道具となつてくれれば一層楽しいのではなからうか。こういう点で幼稚園、保育所の製作は反省されてもよからう。即ち今日ふつうになされている製作は材料が画用紙や色紙が主であるために作つたもので遊ぶことが余りできない。骨を折つて作つた紙の花籠も遊び道具としてはそれほど面白くはない、それよりは風車やこまの方が余り程面白い。即ち製作はたゞ作ることだけに興味を持たせるのでなく遊ぶものを作らせるというふうに指導すべきではなからうか。目的のない製作ではなく、一つの遊びを目標としてそれに必要な道具を作るといふ形の製作が子供にとつては楽しいし、またそれが眞の生産活動になるものであろう。このためには使う材料も原紙とか木や竹、或いは接着用にも糊の他にセメダインやセロテープ、或いはボルトナットなども活用すべきではなからうか。

このためにはやはり保育者の指導が必要である。子供の創意工夫を要求し、勝手にやれといつてもそう容易に創意は生まれてこない。先生或いは友達からヒントを受けて模倣しながら自分の考えを創造していくものである。

保母が一定の材料を与えその作り方を示しながら製作すると余りに指導的になりすぎるが、種々な形に切つた材料を用意し、保母が勝手に幾つかの物を作り、子供はそれに刺戟されて、まためいめいの特有のものを製作するという形をとるのが望ましい。このためにはありきたりの手本や教材ではなく先にも例示したような様々なその土地々々において廢物にされているようなものを活用したり、又その組合せ方についての技術的暗示や指導を与えること、更に保母自身も創意を働かして新しいものを作つて見せるという事が大切である。

園児の夢を追って



高 間 富 子

久松幼稚園は戦前久松小学校の三階屋上のサンルームと、階下現在の図書室を仮りの保育室として三組の園児を收容して狭い制約はありましたが幼稚園ならではの楽しい雰囲気ひたることができました。

それが久松小学校創立記念日の三月九日の震災のため全校舎羽目板一枚残さず焼失してしまいました。

子を思う親心と学区各町の非常なお骨折りが槌の音高い復興をよんで床を張り壁を直し、一教室、一教室とだん／＼修理されていきました。そのとき横山町、馬喰町の方々が主唱され、そのお力で戦前工作室でありました割合広い一室と廊下をへだてた前の普通教室を修理されました幼稚園が再開されたのが昭和二十四年四月でありました。

当時義務教育優先と六三制整備に大童でありました区経済と窮乏の中に生れた幼稚園だけに施設としては何一つないガラんとした空漠そのもの、部屋だけでありました。

社会の立直りは未だ日が浅く、敗戦の憂き目を語る混沌無秩序が反映しまして親を

放れて、安心して幼児を護る天地はたしかに幼稚園のみであったかも知れません。

この環境情勢から切実な親の願いが叶って再開されたものですから父兄は私達の手で、できるものは何でも致しましょうという一致した強い結束でありました。

幼児教育に対する世の関心と、親のこうした打てば響かぬ心構えがありましたので私達の要望は痒い所に手が届くほど次々に施設万端が進められましたことは有難いこととであります。再開後四年の間にピアノ一台、オルガン四台、十六ミリトリーキー映写機、暗幕一式、オートスライドテレプレコダー、人形芝居セット、電蓄楽器類の視聴覚器材各、部屋へはま／＼と遊びセット一揃つ、弁当保温器、整理戸柵、傘立、下駄箱、画架などが次々に保護者の手で作られました。園児の情操を豊かにするためには動植物の飼育栽培にも力をそそぎ、植木鉢、金魚鉢、小鳥籠の他に長さ二間、巾一間、高さ一間半の鉄骨金網には数つがいの小鳥、上野動物園長から寄贈された小鴨が泳ぎ小石の上には小亀十数匹が這っています。その頃四国から三匹の山羊をつれて

東京まで歩いて来たという小島風平氏が小
学校の警備員になりましたので、その三四
の山羊を貰うけ公園課の許可を得て公園
の一隅に山羊小屋をつくり笠原用務員が飼
育係りで園児達に喜ばれました。

園内の施設がこうしてだん／＼整い内容
が充実するにつれて入園希望者が年々倍加
し、之が受入れには区の当局と一しょに頭
を悩ます問題でありました。

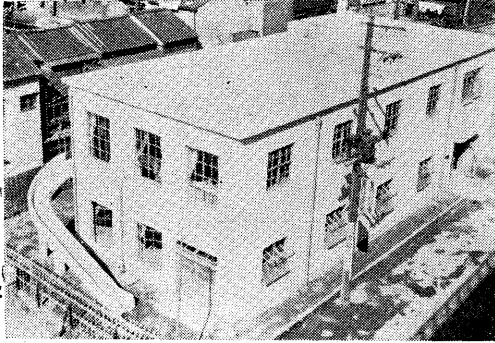
久松小学校は震災のため全焼し隣校にな
つた千代田、浜町、宮崎小学校の中唯一つ
残されました関係から学区が戦前にくら
べて非常に広くなりましたこと、住宅街
の復興と共に就学児童は激増するばかりで
いきおい小学校の校舎の一部を借りている
幼稚園としては義務教育優先の立場からど
うしても教室を明けねばならない運命に立
ちたりました。

一方には入園希望者が殺倒します幼稚園
では公立の立場から一人でも多く收容せね
ばならないという事情から、父兄が鳩首協
議しました。それは独立園舎を建設してこ
の隘路を打開していただくより他に、途が
ないのでそれを区に請願することになりま

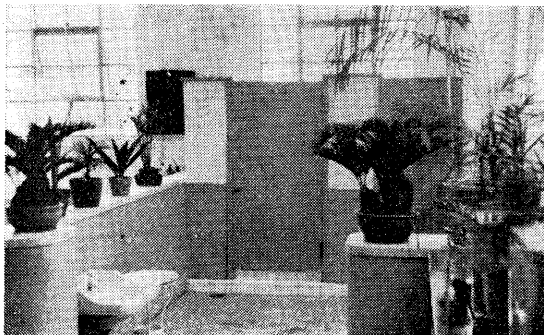
した。

このため次年度入園希望の父兄を含めて
父兄大会を開き熱烈火を吐く輿論を喚起し
久松幼稚園後援会を組織しました。会則を
定め会員の募集をして具体的に運動にとり
かかりましたのは昭和二十八年二月であり
ました。

幸い後援会の団結と熱意が実を結んで会
員の負担する会費三百六十万円を幼稚園建



72坪の敷地に6教室を容れる園舎全景



開放式便所の一部

設資金の一部として区に献納し、学区関係
の都区会議員の非常なお骨折りで久松小学
校児童收容の対策として園舎建築予算七百
二十万円計上が区議会を通過することがで
きました。

二十九年度は園舎の建築が実現されると
いう明るい希望もあつて二百六十名の園児
を六組に分けて保育することになりました

が、小学校は二十四学級の校舍機構が児童の増加のため二十七学級にしなければならぬ事情から今まで園舎として借りていました三教室を学校へ返さねばならなくなり、またので小学校の職員室を明けていたゞきそれを衝立て二つの部屋に仕切り講堂も園舎のできるまでを条件として四部屋をつくって、災害、引揚者を收容するような急場凌ぎの保育状況でありました。

園舎は、はじめ講堂地つゞきの小公園につくるか、久松警察の裏側にそつた廢道の上に予定されていましたが、公園を使用する先例になるといふことから暗礁に乗り上げましたが、都会、区会議員の方々の非常なお骨折りで昭和七年公園課から小公園七十二坪の土地を小学校の運動場に使用することを許可されていきましたので、その敷地を公園にお返しする代りに小学校南側、路一重の浜町川の埋立地の同面積を園舎建築地に決定されました。

そこで中央区の宮澤課が主となり設計がはじめられましたのが昭和二十八年十二月でありました。設計に当りましては幼稚園舎は平屋建を原則とするといふことゝ、七

十二坪と限定された狭い土地に二百六十名の園児を收容するという難問題がありました。

幸い文部省の有難いお計らいと、御指導で階段をスロープにすること、非常の場合を考慮して避難のときの迂り台を訪けることとして東京の公立幼稚園としてはじめてのケース二階建が許可されました。

いよいよ地固めになりますと浜町川の埋立でありますのではじめ三間の杭が地底に届かず四間の杭を三百本余りも打ち込まねばならなかつたり、それに伴う鉄骨ブロックだけに重量耐震の関係からいろいろ模様替などがありました。保育室は、はじめ階上階下ともに四十九坪各二教室計四室でありましたが、六組、收容の必要から中の壁を抜いて夫々ホール式にしそれを間仕切りすることにしました。

当園の建築について、基本的な課題は限定された七十二坪の敷地に園児二百六十名を如何にして收容するかという点であります。

然もその敷地は公立の立場から通学区域の小学校に接近していなければならぬ条

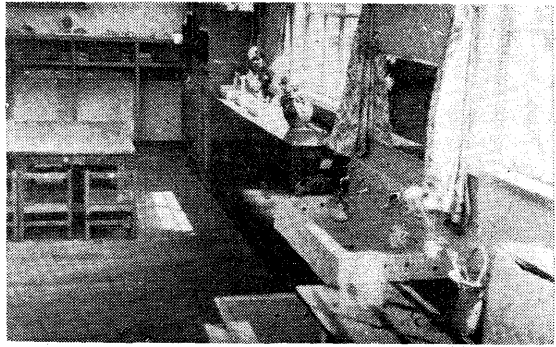
件がありまして隣接した川巾九間の埋立地に建てる他、途がありませんでした。

幼稚園の生命は環境であることを信念とする私どもはこの悪条件を克復して与えられた場所を如何に工夫して最良の環境設定に近づけしむるかに努力を続けねばならぬ覚悟であります。

単的に云うならば当園の設計は潜水艦内の機構そのものであります。

この必然性から限られた空間を最大に活用する考慮が払われねばなりませんでした。

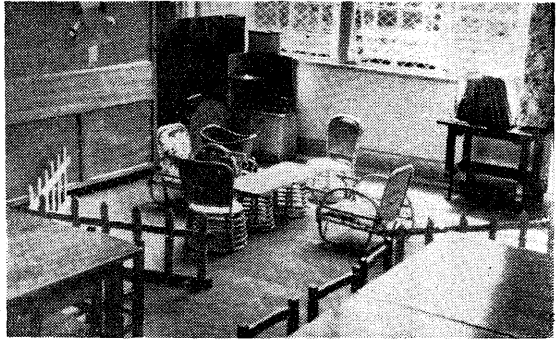
乃ちホール式間仕切りについては、防音と壁面の展示、観察台を具備し、しかも床面積を塞がぬ最小限度の教具、教材の整理戸柵をかね、簡単に動かせるように回転式ゴム車をつけた衝立を考案しました。この衝立は巾一間高さ五尺六寸で脚部は巾一・八尺、高さ一・八尺の両面使用の教材整理戸柵の中央に嵌込になつて取外しができるようにしました。各保育室はこの衝立二つで仕切れ外壁窓の腰板に四人共用のロッカーが取付けられ、上部は園児の整理戸柵にしてあります。



床面積をふさがぬよう腰板を利用した（ロッカー
飾戸棚・弁当保温器・手洗）

このロッカーと衝立の間は廊下になるわけ、廊下のないのも当園舎の特異であります。

黒板にも新しい工夫をしました。室内の調和を壊さぬ色あいとして地に濃い緑の羅紗を張り、その上に磨り硝子を張りますと字のうつりもよく、粉がとばず、光線の反射もさげられます。園児に使わせるための



まゝごとセットのある保育室

高さとも巾をもたせ、両方から使用できるような斜面にし、脚にゴム車をつけ自由に移動ができます。

その黒板の上では紙芝居や人形劇がやれるようにしてあります。

水飲と手洗いとを兼ねたところには冬季自動湯沸をつけ、弁当保温器は壁の腰をつかいました。瓦斯は各部屋に配管し暖房は

瓦斯ストープとしました。

便所は階下と階上に設けましたが日本では未だ余り類例を見ない開放した水洗式とし熱帯植物や常緑の鉢を以て囲み小鳥や、熱帯魚を配し、庭園の感じを出し明るく清楚な気分がたぎよっています。

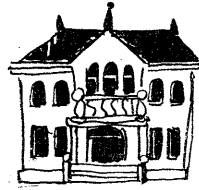
額には童心をとらえた絵と園児の絵を配して多くとり入れました。

× × ×

幼稚園に一步足を入れるとそこから受ける気分零囲気が幼稚園としての生命であると思えます。花屋の店に入った時と、干物屋の店に入った時に受ける感じがどんなであるかは、園児の環境をつくる上に大きな示唆があります。幼稚園の教具・遊具・施設として、その配置、装備は園児にとりましては、それがそのまゝ活きた教材であり小学校での教科書となるものだと考えます。そうしたねらいで私どもは小さく狭いながらも童心に近づけるよう苦心しています。

妙なる音楽に耳を傾け、リズムに身を振わせねばいられないような場、花を愛で、小鳥の囀つりに育てられる（18頁に続く）

確かに希望がある



志 高 南 武

昭和廿九年七月現在、文部省の調査によるわが国における私立幼稚園の総数は二八三二を示し、これを昭和廿二年四月卅日現在の七八九に較べると三・五倍に達している。その内二三八〇、即ち全体の八四％にあたるものが日本私立幼稚園連合会に加盟しているのである。これは戦後、私立幼稚園に対する認識が一般社会から漸く高まって来たのと相まって、内においては幼稚園自らが、私立学校としての体制を次第に調べて来て、これが各個バラバラでは、何事を実行しようとしても力が足りないし、また多数の盛り上げる力によって、その改善向上を計らなければ、それは達成されないとの要望から、その組織体が強化されて来たことを示すものであるといえる。

同連合会は昭和廿八年五月十八、十九の両日、愛知県犬山町において、第六回総会を開いたが、この際、各都道府県団体提出議案の

うち、次のような議題が期せずして三方所から提出された。

幼稚園大会開催に関する件（本部）

私立幼稚園教職員大会開催の件（東京都）

私立幼稚園大会開催の件（静岡県）

その提案理由に多少の相違はあったが、全国同業者が一堂に会して刻下の諸問題について検討をしようということについては、いづれも共通したところであった。

このような声が出て来たというのも、戦後の混乱時代を経過して、漸く安定の域に入った社会情勢の中にある幼稚園自体を自己反省の余裕をもつに至り、幼稚園教育にかけられたる社会の期待に対して、互に研究検討をしてその向上に資したいという願いが、その底にあったからであるということができよう。同総会は三案を一括して可決、その第一回を昭和廿九年、大分県で開催することに決

定した。

かくして、大会開催については、廿九年に入ると直ちに準備に着手し、その結果廿九年七月卅、卅一の両日、別府と大分の両市で開催することとなり、各県を全国私立幼稚園研究大会とした。連合会はその前日の廿九日、別府市において第七回総会を開き事業執行、役員改選、議案審議をしたが当日の出席者卅二都道府県より百五十八名の評議員が参集、これまた同会初まって以来の盛会であった。

研究大会には約千五百名の出席者があつたが、その八〇％は九州地区以外からの来会者であつた、もつてこの会が全国私立幼稚園教職員に期待されていたかが知れるであろう。大会は羽仁説子、山下俊郎の両氏の講演の後二つの分科会に分れて研究協議がされたのであつた。

第一分科は「教育内容に関するもの」十三項、第二分科は「経営管理に関するもの」十項、この二つの会を通じて表されたことについては次のようなことがいえるのでなからうか。

教育内容に類するものとして(一)小学校

教育及び小学校との關係、連絡をどうするかということ。即ち幼稚園と小学校の間のギャップを、どのような考えと方法をもつて埋めて行つたらよいか、ということである。これに関する協議題としては

一、幼稚園教育を小学校教育の芽生期と思考することの如何(山口県)

二、小学校低学年と幼稚園との教育課程の限界は如何にあるべきか(香川県)

三、教育効果をはかるため幼稚園と小学校との連絡提携の具体的方法如何(和歌山県)

というのであつた。但しこの種の問題は昨今に始まつたことではなく、むしろいい古されたことでさえあるが、しかも今なお未解決の問題である。その原因として挙げられるものには、小学校側の幼稚園軽視、時としては否定、小学校教師の幼児教育に対する無理解。また幼稚園側としては正常な幼児教育の場となつていない、いわゆる準備教育的なもの、小学校に対して積極的働きかけの欠如、などこともいえよう。

これを未解決のままおくことは、折角幼稚園の教育をされていながら、却てそれがため小学校で問題を生ずるといふことになり、不幸この上ないことである。もつともここに挙げられたことは、その一部に限られたことであるが、然しこの点いろいろな方面からは正を計り、幼稚園本来の教育目的である「適当な環境を与えてその心身の発達を助長する」場所となしなくてはならぬと同時に、積極的に小学校側に働きかけて、その連絡を図るべきである。

それとともに、協議題二にもあるように、小学校低学年と幼稚園との教育課程の限界をどこにおくべきか、即ち幼稚園から小学校へ導入されるに、どのような途をたどるべきかを今少しく明らかにしたいといふのである、例えば文字や数の扱い方にしても、幼稚園では教えてはならないといわれるが、然し現実としては幼児はすでに文字や数の生活をしてゐる、それならば小学校のように教えないまでも、それを如何に導くべきか、またどの程度それに触れてよいか、その限界を知つて、

なだらかに両者の渡りをつけるべきではないか、というにある。

これは一例に過ぎないが、このように幼稚園と小学校低学年との関係が問題になった。

羽仁説子氏は大会最後の感想の時間に、「私はむしろ小学校低学年を幼稚園につけた方がよいと思います」という意味の発言があったが、ここまで来ると詰るところは新学年令の低下、即ち現在の幼稚園をも含めての幼小学校というようなものが、理想的な姿であるということになるが、然しこれはまた「幼児」という点から見て問題が残るであろう。それ故に、現在においてはこの両者が共同研究の如き形において、相携えて探究してその解決をはかり、幼稚園教育が小学校で生きているように努力を払うべきではあるまいか。

(二) カリキュラム、(三) 視聴覚教育、(四) 健康教育、(五) 平和教育、(六) 母親教育、家庭教育との関係。

カリキュラムがどのように編成されているか。それぞれの特異性を生かすため如何ように取り入れるか。原理と実際の両面から考え

られたのであった。また視聴覚教育にしても健康教育にしても、平和教育にしても、いわゆる一時のはやりであつてはならぬ。放送設備をしたがその当初だけで、あとは殆んど利用しないというのでは宝の持ちぐされであつて、その原因はどこにあるか、どのような点を改善しなければならぬかを究めなければならぬ。このようなことから、研究所をつくれという声が挙つた、日私幼連が常設の幼児教育研究所を設けて、そこで常に幼稚園の教育

について研究するようにしなければ、折角の研究も断片的に終るといふのであった。これに対して一部の考え方には、研究所設立は結構なことであるが、連合会がこれに当るのは適当でない、連合会はどこまでも地方私幼協の連合体であつて、それがこのような事業をすることは組織の上からも、またその経費の上からも不可能である、それよりも各地方においてなされた研究の成果を持ち寄つて発表し合うことがよい、という説もあつた。然しこれも大都市所在地ではできようが、そうでないところではどうであろうか。いづれにし

ても日私幼が過去六年間、教育内容の研究という点に触れることができないほど、外側の体制処理に追われていたものが、こゝに研究を取り上げ、その端を發したことは喜ぶべきであつて、今後この中からわが国幼稚園教育に寄与する研究が続出することであろう。

第二分科で協議されたことは(一) 共済組合に関する問題(二) 適正配置(三) 無認可のものに対する措置(四) 学校法人関係(五) 設置基準に関する諸問題(六) 定員と収容力との関係、などに分類することができる。

現在わが国の三才〜五才の幼児の推定数に比して、幼稚園の收容能力は七%、就学すべき幼児だけからみても一七%、(うち私立は九%)ということであつて、幼児教育の必要性からいつて、なお多くの幼稚園の設立がされなければならぬことは、この数字からみても当然のことである。然しそれだからといって無計画に、自由企業的に、どこでも構わずに既設のものゝすぐ近くに新設されるというようなことは健全なやり方ではない。この点は公立をも含めて適正に配置されるべきであ

る。未開拓のところにこそ続々と設置してほしいのであって、敢えて既設の中に割り込んで摩擦を生じさせるは賢明なことではない。その一方、園数の不足から応募者の收容に応じ切れないところもあり、そこから生ずる諸種の問題、また超定員の收容から、設備の十分がもたらす教育効果の削減などの場合もある。

そういう意味から適当な設置基準を守ることの必要がある。然しここで考えらるべきは幼稚園として最も教育的効果を挙げようとするには、どの程度のもを理想とするかというところである。果して三四百名も收容するのによいか、またはかつていわれたように百人内外の員数がよいか、仮に大幼稚園主義と小幼稚園主義というような言を使えば、いずれを採るべきか、十分に研究さるべきである。小幼稚園が幼児の歩ける範圍に幾つもあった方がよいか。または大幼稚園として一カ所に集めた方がよいか。という問題であって、そこに現行設置基準の再検討がこの会でも取り上げられた。

また第一でも、第二でも地域社会と幼稚園との関係、例えば地域社会の要望と幼稚園における幼稚園とか、地域社会の要望と幼稚園という言い方がされた協議題があつたが、ここにもまた幼稚園の特殊性があるといえる、その反面社会教育的の面を幼稚園が担っているかの感がする。

以上が、この大会において表われたものに私見を加えての感想ともいふべきであるが、何はともあれ、全国の私立幼稚園がその量におけると同様、その質においても十分にすぐれたものをもち、その持ち前の特徴を生かしてわが国の幼児教育に当るためには、今までその体制を調えるに多大の苦心を経て来たと同じように、その教育内容についても一層の関心をもち、しかもそれが個人的に分散することなく、いわゆる力を合せて伸びてゆかなくてはならぬ。この大会はこのために確かに一石を投じたといえよう、その波紋は今後また新たなものを生み出すこと、思っている。

☆幼児教育界におくる

倉橋惣三先生の二著ノ

幼稚園真諦

B 六判一四六頁定価一八〇円

子供讃歌

B 六判二三四頁定価二六〇円

倉橋惣三先生が、永年に亘り考究された幼児保育の真のあり方を、体験によるうらづけと、先生の美しい心のままに、平明に描かれた書で、幼児教育にたずさわる先生方が、必ず一度はお読みになつて、ほんとうの意味の幼稚園の理解と、倉橋先生のりっぱな児童観を、会得していただきたいと思ひます。

株式会社 フレーベル館

實際保育に當つて一年

上 山 照 子

言つていられたが、どんな子かしら……

子供を迎える前の晩、私は仲々、寝つけないのでした。

四月九日から、五十人の幼児を抱えて、私の保育生活が、始まりました。ところが、まだ保育のほの字も分らない。その翌日、私は、思わぬ珍事に

例の老児さん方も、恥かしそうな顔して、子供達の間に入り、太い腕を上にな下に、重たそうに振つて、蝶々になって飛びました。子供達はキャ／＼、大喜び！

「さあ、お花にもなりませう。蝶々さんが、密を吸いに参りますよ」

老児さん方も、大きな腰をどっかりと低くして、大きなお花を作りました。新聞社のカメラ班が、パチリ／＼。

場に立たされた私は、一人前の、幼稚園の先生気取りで、名士の方々を誘導してしまつて、こんな愉快な事はありませんでした。

けれども、こんな風に愉快に過したのは、ほんの束の間、それからは、毎日、苦しい日が続きました。子供達も、私も、すぐには、幼稚園の生活に慣れませんでした。特に、一人の男の子が慣れにくく、約一ヶ月半、私は本当に困つてしまいました。

玄関で、＼帰る／＼と幼稚園中に聞えわたるような大声で泣いたり、地団太ふんだり大騒ぎしましたが、半月程にし、やつと、部屋に入るようになりました。ところが、お集

実社会に出る事は、本当に嬉しかった。

赤い屋根、白い壁！ 路に面したお花畑には早咲きチューリップが、小さな蕾をつけていた。子供の絵が、開かれた窓から覗いていた。辺り一面、楽園のような香が漂っていた。

「これが、私の勤める幼稚園だ、私の胸は破ち切れるばかりに、脹むのです。

あれから、そろ／＼、一年になるとは！
康孝ちゃん、どんな子かしら、雅子ちゃん
主事先生が、しつかり者ですよ、と繰返し

出会つたのです。

遊戯室で、二組の年長組が、K先生のピアノに合わせて、上に下に、可愛い手を振つて蝶々になって、飛んでいました。その時、背の高さが、子供の二倍もあるような、けれども真白いエプソンを掛け、ハンケチを胸にさげて、幼稚園児に仮装したような立派な紳士が十人程、ドヤ／＼入つて来ました。それは、主事先生のご紹介によると、かねて聞いていた。市川市長さんを始めた。市川の名士達の一日入園の姿でした。

りの時等、全身緊張の塊となつて、慣れない

手でオルガンを弾いていると、突然、〃帰る

帰る〃と例の調子で泣き出すのです。〃先生

泣いてるよ〃子供が走つて来て、私の腕を引

つ張る。〃お俐口さんね、泣かないのね、一

生懸命、なだめていると、〃先生、ぶつんだ

よ〃と子供が口々に何か言う。机を叩く、奇

声をあげる、女の子が泣き出す、私はどうし

てよいか分らず、Tちゃんの手をひいて、主

事先生の所へ、助けを求めに行くのでした。

帰つてみると、男の子が子供の頭を、ボカボ

カ叩いて歩いている。つかみ合いをしている

泣いている子がいる。

〃お席に戻りましょう！ 静かにしましよ

う！〃 どんなに声を張り上げて、私の声

等、通る筈がなかった！

ぐつと、胸が、こみ上つてくるのでした。

この頃の私には、まだ、子供達の行動を、

規律的に導く力など、全くありませんでし

た。クレヨンやお弁当を持つて来る時、うが

いをする時、私は、ひき起された大変な騒ぎ

を見て、初めて、〃しまった〃と思ひ、なす

べきだった事に気が付くのでした。

私の組の騒々しさ、規律の無さは、幼稚園

中、有名になつてしまいました。その騒ぎを

見る度に、脹れ上つた私の胸は、段々、萎ん

で、遂に、ベシヤンコ、になつてしまいまし

た。けれど、このような騒ぎの中から、私は

集団生活の規律の必要を、身をもつて体験し

たのです。

それでも、一学期が終る頃には、私も、保

育に大分慣れ、子供達も、幼稚園生活に慣れ

て、行動も一応、規律的になつて来ました。

× × ×

夏休みは、勉強のよい機会でした。

私は、一学期の保育を、いろいろどふり返つ

てみました。沢山、問題にぶつかりました。

固定してしまつた絵の事も。一日中、無表情

な顔して、傍観しているM子ちゃんの事も。

乱暴なKちゃんの事も。私は、規律の事や、

ピアノの下手な事はかり気にして、子供達の

生活を、豊かな、充実したものにしよう、

努めていなかったではないか！ 一人一人の

子供を、じつとみつめていなかったではない

か！

新たな期待を以つて、第二学期を迎えまし

た。今学期は、出来る限り園外保育もして、

豊かな自然にふれるようにしよう。言語に関

しても、童話や紙芝居を、与えるばかりで無

く、子供達自身が話す事の指導にも、多いに

力を入れよう。問題のある、M子ちゃん、E

子ちゃん、Kちゃん達も、じつとみつめて、

適切な指導をしよう。私は胸の中で、いろい

ろ、考えたのでした。

行事の多い秋！ 動物園への遠足も、運動

会も、大変ではあつたが楽しかつた。けれど

私には、月の末に行つた。虫取りの園外保育

が、ほんの三十分ばかりだつたが、一番、楽

しいものでした。

片面を丸くり抜き、セロハンを貼つたハ

トロン紙の袋を作り、各自、それを持って、

目的の野原に向いました。そこ迄、子供の足

で、十二分。途中の踏み切りや、国道では、

随分、ハラ／＼しましたが、無事に、野原に

着きました。

話しに聞いた通り、イルワ／＼、子供の大

軍に、昼寝のひと時を急襲された虫共、びっくり仰天！ ビョン／＼／＼、草の間から、飛び出して来ました。つかまえたよ！

先生、袋開けて！ 子供が叫ぶ、先生、先生、袋！ 袋！ バッタだよ！ 子供達は虫の大軍に逆襲されて大騒ぎ。洋服にとまる髪の毛にとまる。いた／＼／＼かまきりに咬まれた先生も、思わず大声をあげる。

本当に、楽しかった。生まれて二十年、その間ずっと、東京の町の真中で育った私は、虫取りの楽しさなど、全く知りませんでした。時間さえあれば、もっと／＼、していい位でした。

例のM子ちゃん、近頃では、私にお話するようになり、又、おすべり台に乗って、遊ぶようにもなって、幾分、顔が生々として来たようです。『帰る／＼』と泣いて、慣れない私を困らせたTちゃん、最近では、『大地饅頭』

——土のお団子の事——作りに予念がありません。

こうして、私も、最近、少しずつ、保育の

楽しさが、分るようになって来ました。

けれど、道は遠く、私の実際の保育は、まだく、貧弱で、子供達の生活を、生々とした。豊かなものにしてはけません。でも、私は、今日よりは、明日を、今年よりは来年を……。

と、自身自分に期待しているのです。

先日、入園したばかり、と思つた子供達も程無く、小学校に行くようになるのだ。

『帰る／＼』と言つて、慣れない私を泣かせたあの子ども、年中フラ／＼部屋を歩き廻るあの子ども、鼻をならして甘えるあの子ども……みんな、学校へ行くんだわ。学校に入つても時々、思い出して、幼稚園の私の所へ、訪ねてくれるかしら……、その時、『先生、ピアノ、随分、間違えたね』なんて、言われないかしら……。

(市川学園幼稚園)

(11頁より)

豊かな情緒、幻灯や映画、しかも、その一こま／＼に僕達私たちが入っている自作のスライドを取入れて生々しい体験を語り合うために視聴覚設備を思い切つて施しました。手洗所や階段のおどり場に立てば自分の身なりを映して、正しく、美しくするよう、大鏡を配しました。

壁の色、螢光灯のうつり、朱塗りの階段の手摺り柔く温みを感じる絨壇の代りに赤いうより近代建築の象徴に応わしい高級パルコニーの甍い場所を思わせる、きれいで、明るいところにしたことなど童心の夢を追う試みであります。敷地の制限は庭園遊び場が思うように取れませんが、幸い近々園舎につゞく埋立地が小公園に予定されていますので、生垣、芝生、庭苑、池、小鳥、小屋ジャングルジム、シーソー、太鼓梯子／＼り台等の遊具を備えて、園児の教具教材を豊富に盛り、園児を美しく丈夫に育てるため植物以上尊くも豊穰な島となるよき環境を設定することを楽しみに努力していきたいと思つています。

實際保育に當つて一年

定方とく

「先生お早うございます。」「先生先生お早う。」臆を輝かせて元氣一杯に挨拶する子供達に取囲まれて思わずほころぶ顔、「今日も一日面白くね」と語りかける目と目がうなずき合い乍ら、すつと一人一人の心と私の心とが見えぬ絆に依つて結び付く。

子供との接觸が無理無く出来る様になつたこの頃、昨年の私と現在のそれを較べてみて、僅か一年の才月と言うものが何と多くの

ものを変えて来て居るかに今更ながら驚くのである。学窓を離れて新しい職場に就く事に決定してからも、自分が教える立場になるのだと言う事が何となく実感の伴わない氣持のまゝに、桜の咲きこぼれる園庭に立つて幼児を迎えたその時から、良い保育をと心に願いつゝも思う様にならず、唯、無我夢中の毎日であつた。運動会、ゆうぎ発表会等の対外的な行事も滞り無く過ぎて、漸く子供を取扱う上の多少のゆとりが出来て来たと思われる頃には、木枯しの吹き荒ぶ冬も去つて再び廻つて来た長閑な日射しと共に、私にとつては忘れられぬ思い出を残した三十五人の教え子とのお別れの日が迫つて来て居たのである。

の大人びて来た事、上級生の間にあつては、未だく乳臭い面影ばかりで頼り無いとはいへ、自分の欲する事も十分に言い得なかつた子供達を、時の流れは刻々と生長させて行つて行くのだ。昨一年の間に幼稚園で得た教員の経験が今後の生き方の上に如何なる影響を及ぼして行くであらうか。努力の上では出来る限りの事をしたつもりでも、初めて實際保育の場に當つた教師からの決して充分とは言えない保育をどの様に受取つたか。子供はそんな事にさして關係なく思うがまゝに生きて行つたかも知れない。併し、伸ばすべき芽、伸びるべき芽をも未経験からの不注意に依つて、萎えさせはしなかつたろうか等と無邪氣な顔を見ながら、幼児教育者の適格性を自らの上に反省するのである。

初めての経験

新しい環境に入ると言う事は、誰でも何らかの精神的緊張を伴うものに違ひはないが、適慮の仕方には、個人によつて種々の型がある。比較的楽に子供の世界に自分を溶け込ま

せ得、子供も短時日の中について来る人、そうした人は保育者としての良き資質を自然に備えていると言えようが、一方愛する意図を強く持ち乍らも子供の心を把握する迄に多くの時間と努力を重ねねばならぬ者もある。弟妹を持たず、これ迄に親しく幼い子供を世話した事の無かつた私は、如何にして幼児の欲求に沿つた取扱いをすべきか、子供を前にして全く戸惑う事も幾度かあつた。

前日の疲れが抜け切らずに何となく物憂い日、又心のわだかまりが解けぬまゝに保育室に入った時等、その日一日は落付かない子供を相手にまとまりの無い苦しい保育をしなければならなかつた。

子供の心と一つになろうと心掛けても、最初の中は、今迄とあまりに異なる世界ではあり幼児にふさわしい抑揚と言葉遣いがわからぬ為にともすれば寡黙になり勝ちな教師……當時自分自身で持て余す程の自意識の過剰が、子供と共に喜び悲しむ事を難しくさせている原因の一つにもなつて居た。幼児の行動を客観的に観察する癖が知らぬ中に身について居

た私に、何で子供達との間に眞の心の流通が生じようか。

僅かな心理の動きにも敏感に反応する幼児を取扱う場合、第一に園の門をくぐる以前に精神的、身体的な最上のコンディションにある事が必要とされた。保育経験の多い先生方の間に入って初めから年長組を受持つた事は勉強する上では非常に良い事であつたが、卒業式のその当日迄次々と来る新しい経験の連続に、自分のしている事が正しいか否かの見透しもつかず真剣なそして何となく不安定な明け暮れであつた事も今にして思えばなつかしい思い出となつた。在学中得た理論その他はそのまゝすぐに役立つとは言えず、未熟な指導技術、ピアノ等を日常保育の中で一日も早く習得せねばならなかつた。

そんな私も、種々な面での試行錯誤を繰返す中に保育者としての経験が次第に身について、無理なく子供と遊び教えられる様になつたがこうして以前の私から新しい私に変えて行つてくれたものは、幾多の先生からのお教えに依るがそれにも増して子供達が不断に育

ての心を私に教えてくれた故と信じている。無心に遊ぶ可愛い姿の中に人間が持つ純粋なものを目にし耳にした時の言い知れない喜び、大人になつた私達の伺い知る事の出来ない素朴な驚きの中で生活し、ぐんぐん伸びて行く彼等、先生の目々光つているよ」と臆に写る自分の姿を不思議そうにのぞき込むつぶらな目を眺めて、教えると言う事は、取りも直さず子供の中から貴重なものを学んで行く事であると、深く尊いこの道を選んだ自分を幸福にも思うのである。

思い出すまゝに

秋晴れの空に白い雲が二つ三つ行く。急カーブと共にわあーとあがる歓声、電車が利根の鉄橋にかゝつたのだ。榛名山の中腹、伊香保に程近い折原りんご園へ旅行の一日。案内子、バスとの競争、刻々に変わる山の姿、カサカサと音をたて、窓をかすめるすゝき、全てが子供にとつて面白くそして珍しい経験で無いものは無い、危いからと注意するのも聞えないかの様に窓枠にしがみついている真剣な

顔……誰からか遠足の歌が口をついて出る
と忽ち皆がそれに和して、歌う電車は一路目的地へと進む。こんな嬉しさを私も味つて来たのだからかと幼い頃をふと思い出す。枝もたわわに見事な赤黄のりんごの木、「先生このりんご光ってないね」と言う子、八百屋でのりんごしか知らない彼等は、消毒剤で粉をふいた様な淡い色調のりんごが葉の陰に見え隠れする様が実に不思議らしい。一つはお母さんのおみやげに、一つを草の上に坐して順に皮をむいて行く。「おいしい?」「うん」次に待つ子がぐるぐると動くナイフの光を静かに見つめている。小高い丘は秋の色も漸濃く名も知らぬ鳥の声ものどかである。自然の美しさと、幼児の笑顔に囲まれて楽しさに溢れた一日であった。「先生こんなものが」静かに箸を動かして居る子供の頃から頓狂な声が挙がる。ひらいた掌の上に、餡色にすぎ透つたものが二本、「ビニールだねこれ」今日のお茶は鳥賊と野菜のお煮付である。軟骨をビニールと思ひ込み、とんだものゝ混入と注進に來た子供の大きく見開いた目

に笑う事もならず、説明するにも夢をこわす様な可哀さに暫言葉につまつた事であった。
「親とも思う先生や……」卒業式の歌が静かに流れる。「これから皆心の灯を大切にしてくださいのね」卒業証書を手渡しながら「もつと背が高くなる様に」「早く嫌いなお肉も食べられる様になりましょう」「学校に入ってからあまり騒いで先生に叱られない様に」等と一人一人声をかけながらこのたとえようもなく可愛い子供達を手離し度くないと心から思う。成長する姿をあたと迄見守つて行き度い気持は、親の心理とでも言うものだろうか。入学の喜びにいそぐとお免状を手にして帰つて行く姿を見送つて無事に卒業させ得た喜びと共に、急に心の中にポツカリと穴があいた様な例えようもない淋しさをどうする事も出来ないで立戻して居た。

むすび

パソナリテイ形成に大きな関心を持ち、あるがままの子供の姿を掴み度いと思つた事が私を幼児教育の現場に飛び込ませた大きな

原因であるが表立って教える事は容易であつても陰から子供の欲求に沿うた理想の保育が出来る様になるには、尙多くの時間と努力が必要とされよう。教える立場に二度と再び同じ時間は無い事を心に留めて一日、一時を細心の注意を以つて、子供に当り度いと思う。
(群大学芸学部附屬幼稚園)

会告

この度「日本保育学会正会員名簿」を作成頒布することになりましたので、保育学の研究をされている方々を出来るだけ網羅したいと思ひますから、正会員の資格のある方で未入会の方(あるいは従来準会員の方)は至急本会事務局正会員となることをお申込下さい。

昭和二十九年十二月

日本保育学会

東京都港区麻布盛岡町
愛育研究所内

よい教育で よい研究を



三 木 安 正

よい教育をするためにはよい研究に基かなければならぬが、そのよい研究はどこに求められるのだろうか。このことは、わかりきつたことのように思われるかもしれないが、実は、よく考えてみる必要があると思う。戦争前も、戦争後も保育関

係の講習会というと実によく会員が集る。これは一体、よろこぶべきことなのか、それともかなしむべきことなのか。講演などをたのまれるとき「なるべく具体的にお話しをねがいます」といわれる。ところが、たのまれる方は、子

供を具体的に扱っている人ではなく、西洋の本などを読んで勉強している人なのである。

教育関係の講演会に行く

閉会の辞の中で、大てい………：本日はいへん有益なお話をうかがいまして……うんぬんとあつて……これを明日からの教育実践に役立てたいと思います」といつた言葉のべられる。学者の話したことが、そのまま明日からの実践に役立つのだろうか。このようなことに、わたくしはいつもチグハグな感じをいだかされる。それから、もつともつたいないと思うことは、教育の実践に当つておられる先生方の「研究」というものが、いたずらに紙の上の調査をやつた

り、テストをやつたりして、統計的な数字をならべるだけで、教育の実践とは何等必然的なつながりがないものが多いことである。

このようなことを通じて考えられることは、教育実践と教育研究とはなればなれになつてしまつていっていることである。すでにずつと以前から、教育の研究は教育の現場から握み出された研究でなければならぬというようなことは、ずい分さげばれていた。けれども、そのような論に應ずるような研究成果はあまり出てきていないようである。それは要するに、現場から問題をつかみ出さなければならぬと論ずる人自身が一向現場に入つて行かずに、そういう議論だけしているから

かもしれない。

現場の人は、その教員達成の課程で研究ということの訓練をうけてこなかった人も多いので、「研究」ということはたいへんむずかしいこと、いかめしいことと思ひこんでいたり、ことに「研究」ということは「教育の実践」ということよりはるかに高級な仕事だといった迷信をもっているために自分たちの手のとどかないところにあることと思ひこんでしまつているのではないかと思われるふしがある。

学者先生は口先きだけで手を出さないし、先生方は手も足も出ないようになつてゐるのか「研究」ということではないだらうか。

お医者さんのすることは、

よほどの数でないかぎり、診断とか治療とかいうことと研究ということは一体になつてゐる。生理学者とか薬理学者

というような人は専らいわゆる研究に當つてゐる人だが、これはもうお医者さんではない。教育という仕事も、医学の仕事と同様に考えられるの

だが、教育の分野では教育学者といへば、すべて医学における生理学、病理学という、いわゆる基礎医学にあたるような方面の学者ばかりで、臨床医学者に相当するような教育研究者がはなはだ少い。医学部に行けば内科、外科、小児科等々、沢山の臨床部門があり、それにくらべれば生理解剖などは少数の専門研究者がいるにすぎないが、教育学の方では生理、解剖ばかりで

臨床の方は少数、内科と外科との区別もないといった工合である。

臨床医学の部門では、どんな大家も生涯にわたつて患者をみて、その学術をみがいてゐるのだが、教育学者で実際に子供を扱う人はほとんどいない。

むしろ、医学の仕事と教育の仕事とは全く同じに論ずるわけにはいかないが、教育の実際家たる先生方が「具体的なお話を……」などとたのみに行ける教育学者は臨床教育学者でなければならぬはずなのであるが、実際はそうした臨床教育学者といえるような人は、ほとんど存在しないのである。

これが臨床医学にも比すべき教育の実践的研究の発達し

ない原因であらうと思う。

医学の修業をする大学の医学部には附属病院があつて、臨床各科の教授はみなそれぞれの科の病室を主宰してゐる。附属病院をはなれた医学の修業などにはあり得ないのである。これに対して教員を養成する大学には附属学校があるけれども大学の方と附属の方とは全然はなればなれになつてしまつてゐる。学生は卒業までに数週間附属学校に実習に行くにすぎない。そして大学の教授は附属学校の教官よりも偉そうな顔をしてゐるのである。本当ならば、各科の教学習指導法などを担任する教授は、附属学校（とはかぎらないが）の教諭の中から研究をつんだ人がなるべきなのだ、そうしたことはあ

まり行われぬ。つまり教員養成の方には内科も外科も分化してないわけである。

のみならず、教育の實際にあたつてゐる先生方は、学者というとも何でも知つてゐる偉人のように迷信してゐる。

そして、自分たちの毎日の教育実践をつまらぬことのように思つてしまつてゐる。これは教育の進展にとつて最も恐ろしいことだと思ふ。

そういう意味では、講習会がはんじようすることは決してよるこばしいことではな

い。
實際経験をもたない学者に指導の具体的方法をきくなどということは全くおかしいことだ。

本来、学者は一般的法則を求めようとするものであるか

ら個別のものを抽象化し一般化しようとする教育の實際家は、その一般法則をわきまえていて、これを個別の子供たちにあてはめる。これが両者の考え方のすじの云ちがいであるが、一般化と個別化とはそう一本の筋で簡単にむすびつけられるものではない。そうしたことが出来るようになるには、やはり、自分で子どもたちの行動の中から問題がみつけられるようにならなければならぬ。

学者にお話をきけば、解決できる妙法があるというものはない。

医者においては、ある症候を示す患者に最もよいと考えられるか療法を試みてみる。

それが成功すれば、他の同様な症候を示す患者に次々とそ

の療法を試みてみる。そして症候にある療法が利くということになつてから、それはどうして利くのだらうかということが研究され、病理学とか薬理学とかいう分野での学者の研究で、その関係が明らかになれば、その病気の治療法が確立するわけである。つまり問題を発見するのは臨床部門で問題も解決するのが基礎部門となるが、これは相互に働き合つたり、一人で臨床と基礎とを兼ねる場合もある。

これに対して教育の分野では臨床の方がきつぱり自信をもつた活動をせずに、基礎の方にすべてを依存してゐるようなかつこつである。これでは進歩を望むことは出来な

い。
研究とは、まず何とかして

解決しなければならぬと考える問題をもち、それに対して考えられるだけの仮説を立てそれにもとづいて具体的な対策をたてて実践し、その結果(反応)によつて前に立てた仮説を検討するということを繰返して行くことであつて単にテストをして数をならべるといふことではない。それ故に教育の研究は教育の實踐を通してでなくては出来ないことなので、よい研究はよい教育からしか生れないということを強調したいのである。

冬の衣服について



松 川 哲 哉

まず暖かくて、そしてしかも身動きの楽なこと、できれば柔軟でやわらかいもの、こうした条件が冬の衣服として考えられよう。とくに幼児の衣服としてはこの点に尽きるように思われる。その他に考えられることは、冬の風物や習慣と似つかわしい形や色合い、火に近付く機会も多いが、できれば難燃性でしかも耐熱性の強い材料、外気は冷たく乾燥しているから、ことに外側に着る衣服には、低温や乾燥状態でも性質のあまり変化しないもの、皮膚の露出や冷たい空気の流れ込むのを避けるようなデザイン、またそのために冬だけに使われる手袋、襟巻などの類、こうしたことなどが冬の衣服としての条件となり得る。これらのうち、被服材料学を担当している立場から若干の事がらを考えてみよう。

右にあげた各条件のなかには、かなり相互に矛盾している希望も多い。その幾つかはあとに例をあげて示した。いづれにしても、問題は、そのような性質を持つ衣服材料（わた糸、織物、編物などすべてを含める）を選ぶことと、それらを用いて、希望を満たすよう

な衣服の形や着方をくふうすることとが、うまく調和をとって相俟たなければならぬ。

まず、暖かいための条件を分析してみると次にのべるように、材料そのものとしては、熱伝導性、繊維の長さ、捲縮、弾力性、起毛しなやかさ、通気性、吸湿性、厚さなどが考慮されるが、さらに冷たい空気が入りこまず暖かい空気はなるべく動かないような形重ね着をする順序などの点がかなり重要性を占める。身動きの楽なためにも、比重、しなやかさ、弾力性、摩擦係数などの他に、やはり適当な衣服の形や、重ね着を目的とした組合わせなどが考えられなければならない。

A 暖かいための条件

衣服材料の面からみても、用いられている繊維そのものの性質による場合と、材料としての構成され方や加工仕上などによる場合とがあり、その両面から考える必要がある。とりまとめて列挙すれば、

(1) 熱伝導性の小さいこと……熱の伝わり方の良い繊維であれば、体熱が逃げ易いから

寒くなることは当然で、冬はことに体温と外気温との差が大きいから同じ繊維でも夏より*

*りは伝わり方が多くなる。主な物質の熱伝導率を第一表に示す。

第1表 熱伝導率

		0.574 × 10 ⁻⁴ cal/cm·sec°C	
空	気	14.3	
	水	57.	
木	綿	1.36	(比重0.081)
綿	布	1.9	
	絹	1.22	(比重0.101)
羊	毛	0.92	(〃 0.136)
毛	布	1.03	
亜	麻	2.1	
ナ	イ	4.22	
	ロ		
	ン		
ス	ポンジ	0.96	
フ	ェ	1.2	(比重0.33)
コ	ル	1.08	(〃 0.162)
コ	石	3.45	(〃 0.98)
牛	綿	4.2	
セル	ロ	5.0	
ビ	ニ	3.0~4.0	
ナイ	ロ	6.0~6.5	
	ン		
ガ	ラ	16.3	
鋼	鉄	1550.	
	銀	9980.	

繊維はとくに詰め方によってかなり変化する
(第2表参照)

第2表 繊維の詰め方と伝わる熱量

織	維	0.5g/cc	0.1g/cc
メリノ	羊毛	1.22 × 10 ⁻⁴ cal	0.82 × 10 ⁻⁴ cal
雑種	羊毛	1.25	0.85
米	綿	1.70	0.98
脱脂	綿	1.50	0.92
絹	ベ	1.25	0.77
苧	麻	1.72	1.00
ビス	コース	1.79	0.95
アセ	テート	1.34	0.92

* 温度差1°Cのとき1秒間に1cmの厚さを伝わる熱量で示した。

新しい繊維のデータの不足しているが、繊維による差異は比較的すくない。空気の熱伝導率はそれに比べるとずっと小さく従って空気をよく含むような材料では暖かいことになる(第二表参照)もちろん空気が流通してしまふほどでは、実際上衣服の暖かい空気と外側の冷たい空気と、が入れ替るので寒くなる。次の諸項にのべる条件も、実は、「空気をよりよく含有するもの」に帰される

ものが多い。織物の見掛けの体積に対し、その中に含まれ得る空気の量(体積)の比率を含気率と云っており、第四表脚註の式から計算される。
(2) 短繊維の紡績糸がわたた状であること: 長繊維よりも短繊維の方が糸の内部に空隙が多いので、空気を含有し易くて暖かい。しかも撚りの甘い方が有利で、手編毛糸による編物が防寒に適している理由となる。逃さない

空気を蓄るのが最も暖かい筈と云っても、空気枕のような型式では衣服になり難いので、各種のわた入れが考えられた。わたとしては何も本綿に限らない訳で、短繊維の塊状の集りをわたと云っている。わたの中での各繊維の空隙に暖められた空気がじつとして居る必要があり、従って詰のすぎでは熱伝導がよくなり、緩すぎても空気が通り抜け易いので却って寒く、それぞれ最も適当した量がある。

従つてまた、わた入れの皮となる布地は、なるべく通気性の少ないものが多いことになる。

(3) 繊維の形に捲縮のあること……羊毛のようにカールのある繊維では前と同じ理由で暖かい。この頃ではビスコース・スフをはじめ、化学繊維のスフにいろいろと捲縮加工が施されているのは、外観や手触りを羊毛に似せるだけではなく、このように実質的な効果もある。もしも化繊スフや木綿などにさらに羊毛のような鱗片を付けることに成功したらなお一段と有効であらうと思われる。

(4) 繊維に弾力性のあること……身体部分々々の力に依じて、繊維が部分的にかたまってしまふことが、繊維に弾力があれば避け易くなり、やはり空気が動かなくなると共に、繊維を伝わつて逃げてゆくのも防がれる。しかし、長網維の婦人靴下など、冬は絹の方がナイロンよりも、暖かい事実もあつて必ずしも普遍的ではないが、少くとも短繊維製品ではそのように云えよう。第三表中のヤング率の数字が小さいものほど（例えば羊毛

など）弾力性に富んでいる。

第3表 繊維の性質

繊維名	比重	** ヤング率	吸湿量%	軟化湿度°C
木綿	1.5	800	8.	—
絹	1.36	950	11.	—
羊毛	1.32	260	16.	—
レーヨン*	1.5	800~1000	12.	—
アセテート	1.32	800	6.	180
ナイロン	1.14	120~400	4.5	200
ビニロン	1.30	240~1150	5.	200
オーロン	1.18	800	0.9	250
サラ	1.7		0.1	160
ガラス繊維	2.52	1420	0	815

* いわゆる人絹・スフなどのビスコースレーヨンとベンパルグ
** 伸び難さを示す数字で単位は kg/mm^2 、その他詳しくは拙著「新しい化学繊維の知識」（家政教育社）など

(4) 織物や糸の表面があらく起毛の多いこと……これも同じ理由で暖かい。木綿のネールが暖かく乳児服などに好んで用いられるのもこのためであり、ことに重ね着の場合など衣服の間にもまた動かない空気が含有され易くなる。主な布地についての比重（見掛け比

重を）第四表に示したが、綿ネルは晒などに比べてずっと比重が小さくそれだけ含気率が大きいこととなる。

(5) 繊維や織物がしなやかなこと……繊維そのものがしなやかであるか、糸が細く織方のしなやかなものは、着用したときに身体をよく包み重ね着などの具合もよく、空気の流通や移動を防ぐからやはり暖かい。メリヤスなどの編物はこの点で織物よりも数段すぐれていて、毛糸による編物が賞用される理由である。夏の糊付けした浴衣などはこれと全く逆の立場であり、このような剛直なものでは、何枚重ねて着ても冬はやはり寒い。

(6) 通気性の少ないこと……織目もしくは編目が粗いと、折角暖められた内部の空気が逃げ、逆に外部の冷たい空気が入りこむから通気性の少ないものが望まれる。ことに外側に近いところに着る衣服では、なるべく密な

第4表 織物の比重

木	綿	綿	ネ	ル	0.277
〃	〃	綿	ボ	イル	0.291
〃	〃	新浴	モ	ス	0.354
〃	〃	久留	衣	地	0.425
〃	〃	晒	米	緋	0.443
〃	絹	絞	綿	布	0.546
〃	〃	縮	ジョ	ーゼット	0.271
〃	〃	富	銘	緞	0.398
〃	〃	羽	士	二	0.443
〃	〃	外	套	重	0.532
羊	毛	外	套	地	0.542
〃	〃	フ	ラン	ネ	0.303
〃	〃	ボ	ー	ラ	0.373
〃	〃	モ	ス	リ	0.384
〃	〃	セ	ー	ル	0.461
〃	〃	サ	ー	ジ	0.481
レー	ヨン	人	絹	ボイル	0.624
〃	〃	人	絹	羽二重	0.326
					0.485

糸の太さや密度、布の厚さによつても多少変化する。繊維の真比重(第3表をd₀、織物の比重(本表)をdとすれば、

$$\text{含気率}\% = \frac{d_0 - d}{d_0} \times 100 \quad \text{となる。}$$

もの方がいい。たとえば、毛皮やビロード、あるいはふつうの裏地付きの毛織外套でも、裏返しに着た方が実際に暖かく、毛皮チョッキなどはそうしてある。乳児の肌着にガーゼを使うのも、すぐその外側に密な下着を着せるから効果がでるのであり、それがなければ無意味である。それと同様に、変り編みをしたハイカラな毛糸チョッキなど、少々もったいなくてもワイシャツの内部に着てしまう方が暖かい。

(7) 繊維の吸湿性の少ないこと……水の熱伝導率は空気に比べるとずっと大きいから、繊維が水分を吸うと熱が逃げ易く、また、比熱も水は繊維や空気の約四倍なので、同じ温度まで暖まるのによけい体熱が奪われるから寒くなる。繊維の吸湿量は第三表に示した。ふとん綿をときどき日光に乾すのは吸湿した水分を発散させるのが大きな目的であり、ピロン綿は実用化されても、吸湿性の大きなビスコースのスフ綿が流行らないのもこのためである。もちろん吸湿性だけで暖かさが定まる訳ではなく、暖かい代表のように云われる羊毛では、全衣料繊維の中で最も吸湿量が大きい。

(8) 布地が厚いこと……同質の繊維で同じような構造の布地ならば、もちろん厚地のもほどよく、含気率も厚さの比率以上に高まつて熱の逃げ方が少なくなる。重ね着の間から空気が抜けるようならば、むしろ厚地のを重ねずに着る方が暖かい。

(9) 衣服に空気の流通口が少ないこと……これは衣服の形態の面からみて当然のこととなるが、幼児の下着などではことに留意し、肌に冷たい空気が流れ込まないようにしたい。

(10) 重ね着の順序……前述したことを総合すれば、内側には含気率の大きな材料を用い、体熱で暖められた空気をよく保つようにし、外側には通気性が少なく冷気を遮断するような材料を選ぶなどのことが考えられる。

B 身動きの楽なための条件

以上のように暖かいための条件を考えても全部を兼ね具えた材料を得るのは難しい。ところが衣服であるからには、冬とは云えやはり身動きが楽でなければならぬ。そのため

に考えられることは、

(1) 繊維の真比重の小さいこと……軽い繊維であれば同じ厚さの布地でも軽い訳で、とくに幼児や老人には必要であろう。繊維そのものの真比重を第三表に示した。

(2) 布地の見掛比重の小さいこと……このように繊維の比重は一より大きいのが、糸や織物、編物となると空隙が多くなるので、ほとんどものが第四表にもみられるように、一よりも小さくなる。同じ厚さで同じ面積を被う場合に、この見掛比重の小さいものの方が軽くなる。しかもAでのべたように空気が包まれるために暖かくもなる。

(3) しなやかで弾力性のあること……身体部分の動きに応じて、衣服の抵抗が少なくて動き易いことが身軽な感じを与える。繊維がしなやかなばかりでなく、布地の構造もしなやかなものがよく、また織物を斜布として使うことも考えられる。この点、編物は自由であって、メリヤスに莫大小(大小なし)と当て字したのもこのためである。

(4) 布地の摩擦係数の小さいこと……冬は

ことに重ね着が多くなるから、布の摩擦が少ない方がすべり易くて軽く感じられる。例えば外套や洋服の裏地などのように、長繊維で摩擦の少ない織方にしてある。しかし、暖かいための条件とは相反して来る訳で、毛糸編物などでは摩擦も大きいので、このような衣服を並べて重ね着すればかなり窮屈なものとなる。

C

その他の注意事項

主な条件としては以上ではほぼ尽されたことと思うが、始めにものべたように、できれば燃え難くても耐熱性の強い衣服を外側に着ることが望ましい。ところが、合成繊維やレ

イオンとは異り、第三表にも示したように湿度が高くなると繊維が軟くなり、さらに高温では熔ける欠点がある。従って赤熱されたストープの傍に近寄るときなどは注意する必要がある。もっとも幼児の衣服では、仮に熔融してその部分がバリバリに変わってしまったとしてもあまり大問題でもないと思は

焚火などに近寄る場合も考えて、燃え難い特長を利用していいことになる。

冬の衣服のためのデザインについては、さきに若干の原則をのべただけにして省く。雨や雪などで濡れた場合には、できるだけよく速かに乾しておくことや、ふとん綿に限らず吸湿し易いものはときどき日光にさらすことなどは、やはり冬の衣服として必要である。

冬の衣服を暖かく軽く、と云う点について考えて来たが、雑誌は「幼児教育」である。いわゆるスバルタ式とはいかぬまでも、精神教育の面や皮膚の鍛錬とやらまで考えた場合には、果してこれで解答になったろうか。子供は風の子である。

(お茶の水大助教授)

旗の繩の沖



平 康 村 松

一九五五年の正月を、日本は、そして沖繩は、どのように迎えるでしょうか。

私が、八重山やえやまの先生がたと別れてから、二カ月。その間に、教育長の更迭した知らせを受けました。私より一年前に、石三次郎先生が行かれたときは、教職員組合が、「日本復帰」の旗じるしをかかげ、活ばつな動きをしていたとのことです。ところが、私の滞在中に、教職員組合が解散して、教職員会となり「日本復帰」をとなえることは出来なくなり「日本復帰」の提唱は、政治的発言

であり、教員のなすべからざるものという見解がとられたからです。

八月の教職員大会で、教職員組合が教職員会に切りかえられ、「日本復帰」の旗じるしをおろすことになるうとしたとき、「若し仮りに私がここで反対をとなえた場合、その発言を十分に討議し得るか、又、こうした発言をした後で私の教員としての地位が危くされるようなことはないか。地位の保障がなければ、意見を述べることはできない、と言った教員がいました。発言をとらえて、やめさせられるかも知れない。どこで誰がきいているか。危い。うっかりできないといった気持が多くなると抱かれていたように思われま

す。

「日本復帰」をとなえることは、アメリカに、好意をもって受けいれられていないようでした。沖繩、いまの琉球には、民主党と社大党と人民党があります。上からこの順にアメリカとの関係はよいのです。「日本復帰」「民族的結合」は、あとの二つの党が説えるところでは、アメリカには、「日本復帰」を説える人たちのどれが、共産党系の人たちであり、またどれが、アメリカに好意をもては

するがそれ以上に日本を愛している人たちであるかの「けじめ」が、つきかねているようでした。この「けじめ」をつけようとして、あやまちを犯すよりは、明かに同調者だと思われれる以外のものを、一様に疑い、気を許さぬほうが安全だと感じられているのかも知れません。しかし、この気持を強く出すと、共産党系でない人もひっくるめてそう扱ったりそう扱われていると思う人たちをつくります。自分ではそうだと思っていない人に、そうだといい切ってしまった場合、この結果はどういうことになるでしょうか。

私は、しかしここで、殊更にアメリカのやり方を批判しようと思っっているのではありません。アメリカ流の善意が、必ずしも浸透していないことを、明かにしようと思っっているでもあります。私は、何々使節団の一員としていったのでも、年輩の有名人としておもむいたのでもなく、琉球派遣講師の一人として、六週間にわたって、「児童心理」を担当し、八重山の主に若い先生たちと接する機会をもち、一しょに研究を進め生活をしてきましたので、内心の叫びや突込んだ気持を知ることができましたけれど、それを手掛りと

してここで政治的意見を述べるつもりはないのです。

ここで私が述べたいのは、昨年よりは今年今年よりは明年というように、「日本復帰」の声は、きこえなくなるかも知れない。けれど、事情が事情だからだ。その声が、或いは段々にきこえなくなってきたとしても、どうぞ「日本」の皆さん、忘れないでください。利害をこえて日本との結びつきを心からのぞんでいる沖繩のことを、見捨ててくださるな。日本のほうから、声を大きくして叫んでください。その叫びを實現してくださいという悲そうなほどに切実なこの訴えを、私は、多くの人たちからききまた感じとり、ながらこのことを、日本の皆さんに伝えようと心にきめましたので、それを今、実行しているのです。

私は、帰るとき、八重山から那覇への船の中で、経済方面の視察をしてきた人と一しょになりましたが、その人は、沖繩の人たちがどうしてあんなに日本復帰を熱望するのだろうと疑問顔でした。琉球の現状は、日本よりもっとひどい。今一つになっても、日本にとって重荷だ。琉球でのアメリカの政策も中途半端だ。ここまで来てしまったのなら、一

そう少しアメリカに金を使ってもらって整ってからにしたらよい。これがその人の意見でした。これに近い意見をもつ人は沖繩にもいるように見受けました。基地化してしまつた現在、それを撤かいしてもらふことは無理だ。基地として使つてもいい。しかし、それならそれで、もっと生活水準を高めてくれるのでなければと、例えばこういう意見の人たちがいます。けれど、教員の多くの人たちはこういう考えに反対のようでした。

終戦後、英語熱が盛んだったそうですが、今は下火になっています。教育は、日本語でおこなわれています。教科書も日本のものを使っています。しかし、日本のことをどのように取り扱つたらよいのか。本土という言葉を使、どのように理解したらよいのか。日本とのつながりなしに、日本の教科書を使用しても、精神をかよわせることができない。しかし、この苦ちゅうを訴えて、それでは、琉球向の教科書をつくらう。日本のものを参考にして、琉球独自のものをつくらう。教育しようとして、こう聞きなされることは、もつとつらく感じられる。こういう心境にある人が多いように思われました。

沖繩に生れなければよかった。これでは、日本の乞食であるほうがましだ、と、真剣に語る女教員もいたくらいです。日本から切り離されて、ほかのどの国にも属したわけではない。本当に自分たちと一つだと思えるところは、日本をおいてほかにない。良識ある人で、沖繩のことを親身に考えるなら、このように孤立しているのが、沖繩のためでないとかわかってくれるだろう。身のおき場がなく、ほかのどこにも「所属」することを許されずに、年月が過ぎれば、ますます孤立化し、植民地化してしまつて、もうその時は、日本ともびつたりは一つになれないような状況に追いこまれてしまつたらう。それでも、私たち大人なら、過去を想いおこし、日本と運命を共にした体験にもとずいて、所属感をたかめ日本と共に歩もうとするだろう。けれど、子どもたちはどうか。

過去にそうした経験をもたない。今でこそ東京にいきたい子どもたちが多いが、父母や祖父母からの影響が薄れて、東京には、電車も自動車もある、高い建物もある、いろんなものにふれることができるからと、物質文明の進んだ東京へという気持が、強くなつてくれ

ば、東京よりその意味ではもつと進んだ場所も世界にはあることですから、そちらへ向うようにもなるでしょう。そうして、自分たちから、日本を離れていくことにもなるでしょう。

沖繩の教育界では、日本でも戦後に問題となりましたが、学力低下の原因と対策について、研究をしています。全琉球教育界の研究課題として、目下研究を進めているのですが環境の不備・教員の質の低下などが、取りあげられています。しかし、私は、これについて意見を求められたとき、学力低下の大きな原因として、「所属の不安定」をあげました。親も教師も子どもたちも、所属の不安定な状態にあって、教育をおこなうのでは、成果が充分にあがらない。基本的な「所属の欲求」が満たされずにおこなわれる教育は、勞多くして功少ないものでしょう。私が接し得た範圍では、日本での学力低下よりまた一段とさがっているようだから、とにかく日本の線までは高めようとする努力が、感じられましたが沖繩の特殊事情は、この努力を大きく阻むように思われます。そうして、努力してもなお隔りのあることが分かったとき、学校よりも

広い社会に、原因を求めねばならなくなるでしょう。そうして、再び沖繩の特殊事情に眼が向けられたとき、その原因を取り除いて、日本へ近づける努力がされるでしょうか。それとも、その事情を是認して、日本に近づけることをやめ、琉球独自の目標をたてて、独自の方法で、教育を進めることになるでしょうか。日本との関係が現状のままで、改善の余地がなく、日本の教科書をなお使い続けていけば、おそらく後が強くなるでしょう。

私は、七月十二日に、羽田から飛行機で那覇へ飛び、それから、宮古島を経て、八重山群島の石垣島へいきました。気象通報でおきき及びびの方が多いと思いますが、測候所のある石垣島です。この島の様子や風俗その他についてはまた別の機会にお知らせすることに、ここでは、私が、幼・小・中・高の先生がたと何をしてきたか、その主なものをお話ししましょう。

大きく分けると、四つになります。その何れもが、八重山の子どもたちの幸福とつながる研究です。一つは、八重山における家庭教育の変せんと幼児発達調査でした。

家庭教育の変せんをみると、活ばつな動き

がみられせん。私たちは、その歴史を研究し、幼児発達調査を行いました。これは、日本保育学会で目下調査中のものと同じです。ねらいは、日本との比較をしてお互に役立てることができたためでした。しかし、それよりもつと大切なねらいは、調査結果から数項をえらび出して、刷り、家庭に配布することです。混乱した時代に、教職員が横に手をつないで、積極的に家庭へ働きかける。そうした努力をしておくなら、いつか心ある人は、その意義を見いだして、明日への意欲をかりたてられるでしょう。無自覚に流された家庭教育に、積極的な働きかけの加えられることは、劃期的な意義をもっている。これは、教職員が教室で自由に発言できないからといって、無気力にならないように、一つの救いとしても役立つことになるでしょう。

第二の研究は、八重山の子どもたちの遊びの流れを明かにし、遊びによる指導を考へることです。昔のものは古老にきき、現在のものは街頭で観察したりなど、いろいろ集め、古くても新しくいかすことのできるものを明かにしていきます。この研究もまた、教師の新しい活動分野をひろげること役立つで

しょう。

第三は、問題児の指導に関するものでした。講習参加者が、それぞれの学校で問題になる子どもを書き出し、数の多いものから順に、その対策を研究していきました。

第四の研究は、学力低下の原因と対策に関するものです。

この四つの研究は、八重山の先生たちが一応まとめてくださることになっており、手許にくわしい資料がないので、報告はまたの機会にゆずります。

幼稚園関係では、園相互の連絡機関がなかったのですが、八重山保育会が誕生することになりました。(現在は、沖繩石垣市の「みやとり幼稚園」が連絡園になっていますから連絡ならそちらとお取りください。)

ほかにもまだお知らせしたいことが沢山ありますけれど、紙数の都合で割愛し、最後に、これは、或る園長からきいたのですが、一人の子どもが、旗をかきました。日の丸の旗を、と、その言いたいところですが、白地に赤い日の丸の旗ではなく、それは黒丸の旗でした。このことは、園長をひどくがっかりさせたようでした。私は、幼児の絵の特徴とし

て、色の違いはそう重大視する必要のないことを述べましたが、その園長は、幼児の生活全体からみて、憂慮すべきことと判断したのだったでしょう。

白地に黒丸の旗。これは、白地に赤い日本の旗をよく知らない沖繩の子どものかいた旗です。

日本の旗を知らない。知らない子どもたち

がいます。大人の中にも、白地に黒丸の旗を心にえがく人がだんだんにふえていくかも知れない、それを心から憂いていたのは、ずっと幼稚園教育に打ち込んできた老園長です。そして、この人は、依願退職のかたちではあつたにしろ、私が八重山でお世話になり、私が帰ってから間もなくやめられた教育長のお母さまでした。

☆新刊☆

29年度 研究集録

長い間お待ちいただいた本年度の研究集録が出来ました。本書は去る六月二、三、四の三日間の、教育実際指導研究協議会における講演研究発表、実際指導、研究討議会などの、幼稚園関係のものを全部集録したものでございます。

御入用の方は、実費送料共一部 120 円を添えて下記へお申し込み下さい。

東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学附属幼稚園内
幼児教育研究会

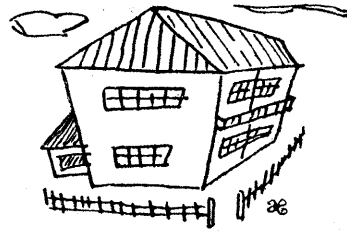
昭和29年12月

お茶の水女子大学附属幼稚園内
幼児教育研究会

米国における

幼児教育協会

全国大会に参加して



黒田成子

一九五四年四月十八日より二十三日迄米ミネソタ州のセントポール市で A C C E I (Association for Childreared Education International) 国際幼児教育協会の大会が開かれた。世界十六ヶ国から児童教育に関係した者達が集まり、二千三百人を越える盛会であった。当時筆者はイリノイ州、ナショナル教育大学の大学院に留学中であった為唯一人の日本人として出席する機会を得た。大会はスタ

デーカンファレンスと称し Effective Education for All Children の示す如く世界の総ての子供達の為により効果的な教育を願うことを研究する精神をもってつらぬかれた。アメリカを旅する者は「選択」という事度々しなければならぬ事を経験する。食事に招かれるとかならず飲物はコーヒーと紅茶とミルクのどれかを選ぶ。キャフテリアに入っても「何でも結構です」などと揉み手をし

ていては半日経っても食事に取りつけない。此の大会でも二千三百人余の代員をまかなう大会であるからプログラムは実に豊富で変化に富んでいた。同時刻に異つた場所次第々と進められているので遊興半分の代員は別として最大の収穫を得て帰りたい者にはまことに注意深い選択を要した。夜はいつも社交的な催しがあり、外国人の私達は遠来の客として度々引張り出された。地区別の晚餐会もあり、食卓をはさんで意見の交換等さかに行われた。会期中最も時間をついやしたのは研究分団であった。これは二十六部門あり、各 A (六才以下) B (六才~九才) C (九才~十二才) の三グループを設けたので全部で七十二のグループに分れた。毎日午後三時から五時まで二、三のホテルのいくつかの部屋で協議会が開かれた。各グループにはあらかじめ定められたコーディネーターと発題者と記録係とが居た。研究の題目としては次のようなものがあつた。(一部分)

児童の経験を如何に取扱うか

教師と生徒の協同計画

児童と文学

コミュニケーション（主にラジオ、テレ

ヴィジョンフィルム）

児童のインデペンデント・スタディー

学校と家庭の協力

児童の自己理解を求める為の指導

教師の自己理解を求めるため

教場に於ける児童研究

レポーター

個人差

学校に於ける精神衛生の実際問題

その他、算数、科学教育、音楽、美術

リーディングに関するものであった。（こ

の読み方のグループを希望する者が非常に

多いのでグループを倍加した。指導者はコ

ロンビヤ大学のガンス女史であった）

グループの数であった為敏腕のリーダーに

当たった者が収獲が多かったのに反し、得る所

の少いグループもあったようだ。

毎日五ヶ所に「相談の時間」という会合が

の大きい集会があるかと思えばごく少数数の支部会もあった。これは会員数の大小により十二の会に分れ、経済、行政その他の方針、等について議した。学生の部会も開かれた。教育の材料になる映画を映写してこれについて討議する会は相当人気があったようだ。教師達はこういう大会でよい材料を検討して各地へ帰った後、映画やスライド等を借り出せる聴視覚材料のある図書館を盛に利用するという事である。

展示会は四十七の製造会社と五十二の出版会社がACEIと協力して成立させたものであった。出品の保育材料、玩具等はACEIの研究会で試験済みのものが沢山あり、絵画書籍、楽器、積木、玩具、科学材料、聴視覚材料等を日によって展示された。どの業者も物品を提供し、会期後はこれを社会事業施設へ寄附する事を申出でたのみならずこの大会に代員も送っている。それは取る為ばかりでなく、直接児童に接触している現物の教師達と思いの交換をする為であるとの事。そういえば会場の片隅で有名人の先生を囲んで玩具についての話しあいがある中、セー・ルスマンらしき人もちらほら見えた。大会中の山は何といつても米國教育界でよく知られた三博士の講演であった。ミシガン大学のオルソン博士は「子供達は如何にして学ぶか？」という題のもとに最近テレビジョンで好評を博している氏独特のチャートや掌大の人形等を使用して平易に話された。両親教育の分野で活躍される所以もうなづかれる。児童の欲求を理解する為如何に身体的、知的、社会的、情緒的発達を知る事が大切であるか。又従来は児童の成績物に点数をつける事によって勉強に対する刺激を促進させ得ると考えられていたが、これはいたずらに児童の均衡性を失わせるファクターを助長させていたに過ぎなかつた事、子供が何か一つ学ぶにしても成熟を待つ事が如何に大切であるか、又その子供自身のもつ力や速度を標準とする事の重要さを力説された。

ウェイン大学のケリー博士は学者らしい明確さをもつて「最も効果的な教育とは何か？」と題して次の様な事を講演された。

「過去二十五年間に児童研究、心理学、生物学、人類学の研究が幼児や児童の行動、心理等を理解する上に大いにあづかつて力となつた。……今や我々は根本的問題に直面させられてゐる。我々は子供達に単なる知識を

「教授」するのでなく、子供達の全人格に影響を与える事の方がどんなに大切であるかを考えなければならぬ。我々は口では進歩的教育を唱え乍ら実はまだまだ無意識のうちに權威をふりまいていないだろうか。我々は静かに坐つてゐる所謂お行儀のいい子供を造り出すのが目的か、それとも機械のように速く上

会が個人の価値が尊ばれ、創造と自由が培われる社会であるか、それとも暗い權威がはびこつてゐる社会であるかすぐ感づいてしまふ。子供達に勇氣と協同と愛情とを望むならば、我々自身もそれらのものを身につけて行かなければならぬ。」

又多数の教育書のベストセラーをもつて知られるハイム博士は溢るるばかりの人間味をたたえ乍ら多くの実例をもつて「子供は何を考へ何を求めているか」という問題について語られた。

「私達大人は子供に対していたづらに無用の心配やフラストレーションを起す前にもつと重大な事がある。それは先ず子供が何を目的としてゐるかという事を考へ、彼を理解しようとしてゐるか、かえつて子供に安定心配が生じるどころか、かえつて子供に不安定感と暖いはぐくみの氣持を与える事が出来る。ひいては子供から驚くべき協力を得られる。教師も両親も子供達の前に立つて正直であらねばならない。子供であるからといって程度を落したり割引したりは出来ない。大人が人

間であると同じく子供達も亦人間である。大人の枠を彼らに押しつけるのでなく、一先づ真剣に彼らの側に立つて理解しようとする。つまり子供は何を目的としてゐるかを知らうとする態度こそ望ましい。」

以上他に会長ウドロフ女史は「米國に於ける協同ナリスリースクールについて」といふ講演を行い、地域社会との關係、両親達と教師との問題等が取上げられた。

グーディクンツ女史は「すべての子供達への關心」と題して世界の子供達について、又これを結ぶ協同精神について話された。

現在アメリカでやかましくいわれてゐる事は子供達が民主的な社会生活を営む一員として、自ら進んで協力をして行くものとなるためのガイダンスが最も必要であるという事である。この複雑な社会に於て人間が人間としての正しい生き方をして行くにはどうしたらよいか、それは将来の問題としてでなく、現在の子供達の生活を通して實際に指導されつつある。教授法を通り越して最も根底の問題まで追求して行こうとしてゐる米國の学者、教

師達の真摯な態度には敬服の念を抱かせられた。

オハイオ大学のザーブズ女史が閉会に當つて挨拶された。「子供達のより効果的な教育を願つて世界中から集つた者達が此処を散ずるに當つて考えなければならぬ使命は、この場所で交流して得たものをこれから出来る丈多くの人々に分ち合い、至る所で児童教育の標準を高める為に尽力する事である。」と結ばれた。

この意義ある大会が終つて半年後、日本では台風十四号が本土へ上陸するという朝、私は二年ぶりで祖国の土を踏んだ。昔ながらの自然の美しさ、殊に山々の緑の濃淡は私の目にも心にも泌みわたつた。それにひきかえて何かしら類騷的な巷の姿には唯おどろくばかりであつた。又教育界では折角伸びて来ていた「社会科」が軽視され、以前の職業教育、一律教育に関心が高まっているという事を聞いた。眞の教育意義を見落した多数の幼稚園が急増加している事をも知つた。

かかる時代にあつて将来の日本国民を育て

る任務に當る我々教師、大人達の反省が今こそ必要ではなからうか。我々は一体何に最も価値をおくか。そして先づ子供達を理解しようとしなければ本末顛倒の姿そのままに進はないと思つた。

なお、次会ACEI大会は一九五五年、四月十一日より十五日迄米國キャンサス市に於て開かれる。主題は「子供達に焦点をおいて」である。

(東洋英和短期大学講師)

日本私立幼稚園連合会編纂

全国私立幼稚園名簿

B五判 一二〇頁 価一五〇円

一六六円

全国国立幼稚園長会編

全国国立幼稚園名簿 (近刊)

B五判 六四頁 価一二〇円

一六六円

発売所

株式会社

フレールベル館

正月さん

正月さんどこまでいらした、

山のころ橋の下までいらした、

お土産はなんやつた、

榎や勝栗、蜜柑柑子、^{ごちひ}たちばな、

犬のふんだ年餅、

猫のふんだ粥餅、

あまの裏の串柿。(加賀)

*

正月さん、正月さん、

どこまでいらした、

稲葉の橋までいらした。

杖に味噌つけねぶりねぶりいらした。(美濃)

*

お正月さんはどこまでいらした、

羊歯を蓑に着て、

つるの葉を笠に着て、

門杭を杖についで、

お寺の下の柿の木にとまった。(伊予)

—— わらべうた ——

幼稚園教育要領(案)とその問題

宮 内 孝

- 一、性格と中間発表の意義(附、発表原文)
- 二、現在までの経過
- 三、その問題点

一、性格と中間発表の意

過般、京都と東京で行われた文部省主催の幼稚園教育研究集会の折、文部省から、後に掲げるような幼稚園教育要領(案)の要項とその内容の一部、「幼稚園の教育目標」と「教育内容」の全文とが発表された。

なぜこのような中間発表が行われたのであろうか。その理由

よ、幼稚園教育要領の性格にもとずくと解せられる。即ち、幼稚園教育要領は、学校教育法施行規則第七十六条に「幼稚園の教育課程は幼稚園教育要領の基準による」とあり、各幼稚園に對して法的拘束力をもつものであるからである。保育要領が絶版になっておる現在、各幼稚園で実際に教育していく法的なよりどころは、形式的にはあるとしても実質的にはないといつても過言ではない。けれども、ひとたび、幼稚園教育要領が出されたならば、各幼稚園の教育課程はそれに基づいて作られなければならず、従つて、それは、今後のわが国の幼稚園教育の方向を決定すると見なければならぬ。また、わが国教育界の一般的傾向として、このようなものが出された場合、それに頼り

過ぎる危険を包蔵している。幼稚園教育要領は、このような性格をもつものであるから文部省としては、広く各地方、各幼稚園の意見を求め、より適合した、よりよいものを作成しようという意図にもとずいて、今回の中間発表がなされたものと解せられる。

従つて、この文部省の意図は深く考える必要がある。前に述べた通り、幼稚園教育要領によつて、わが国の幼稚園教育の大筋が決定される以上、それは、現場における日々の教育に適合したものであるとともに、将来への理想を含んでいるものでなければならぬ。それは、現場の実状に即し、保育者一人一人の考えをも反映するものでなければならぬ。現場と遊離し、現場の支持を保たないものであつたならば、如何によく書かれておろすとそれは一個の作文に過ぎず、画餅に等しい。しかも、たとい、それがそのようなものであつたとしても現実には法的力は失わないのであるから、幼児教育界に混乱をひきおこし、ひいては子どもの成長発達にも影響を及ぼしてくる。一方、如何に現実と適合しておつても、理想を欠いておつてはならない。理想によつて貫ぬかれていない教育がどのようなものであるかは多言を要しないであろう。

このようなことから、文部省としては、このたびの研究集会

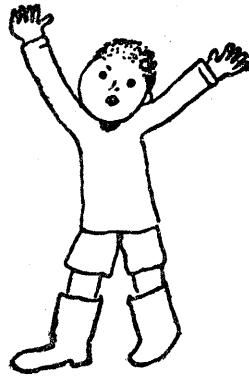
を機会に各都道府県の代表者に、要領中最も重要な、最も具体的で日々の教育に直接深い関係をもつ部分の一応の原案を示し、その意見を求めたのである。従つて、各代表者にあつては一部の人々の意見のみではなく、広く全般の意見を求め、一方幼稚園教育にたずさわる人々は傍観的な態度を捨てて積極的に参加し、その具体的建設的な意見を述べるべきである。すべてこのようなものは、それが決定されて正式に発表されたならば、その改訂には時日を要するし、また困難もともなうのである。従つて、でき上る前のじゅうぶんな検討が必要である。そのためには、これを機会に、この要領案を中心に各地方で研究会などを活潑に開き、その成果をまとめて答申することも望ましい一つの方法であろう。そして、このような事柄によくありがちなかげ口や、あとになってからの不平不満をいわぬようになりたいものである。

これから私は、この原案作成に深く関係した一人として、今までの経過や、その問題点などについて述べ、今後の参考にしたいという勿論ここに述べることは私個人の考えや意見であつて、全く私的な立場からであることはいうまでもない。

(つづく)

幼 児 の

冬期に於ける健康について



竹 村 一

今夏徳島県主催の夏季講習にお茶の水の及川先生と何年ぶりに御一緒になり旧交をなつかしんだ事であった。其節も「健康保育」という話題が出た事であったが、そんなことがきっかけになって編集部からの御申越で此の稿を書く様になった次第である。盛夏八時間の講義で徳島県の幼稚園の先生方は何とか「健康保育の本質」をつかんで納得して下さったことであるが、どうも私の眼からみると多くの幼稚園での健康

保育というとは何か家庭看護法や応急手当という事の様に見えるおる様な感じがする。之は要するに「健康保育」というものの本質が判っていないからであろう。否「健康」ということに就てはつきりした認識がないからだと考える。幼児教育のいろいろの雑誌に健康保育に就てのっているのを見ても、多くはこの種類である。例えば夏であると寒冷の話、たべもの話等々と冬であると風引きの予防、しもやけの手当等

々という様なものである。勿論、こうした事は大切な事であるの言うまでもない。先目もある幼稚園教育研究会に出席した健康保育班の先生が帰県される途すがら立寄られての話しに、「研究会では幼稚園ではどんな薬を備えつけたらよいか、どういふ時にはどんな手当をすとかという様な研究でちつとも健康保育の本質的な研究はなかつた」とこぼしておられた。私の大学では、特に健康教育即健康保育に就て二単位の講義をしてあるからこんな話も私にされた事であろう。

幼稚園に限らず小学校でも中学校でもそうであるが、健康教育（保育）というとは何か医学殊に衛生ということをも単に教育の場に持込んで来て教育にはりつけた様なことになり易い。教育という行動、或は教育としての立場に医学を持込んで寄木細工的にしないで、教育のフルイにかけて教育として取扱うことを忘れている場合が屢々ある。だからみると或は聞いていると、まるで家庭看護法の話かと思われる時が度

々ある。

そこで編集部からの依頼も或はこうした風邪ひきについて書いて欲しいという意図であつたかも知れないが、私は幼稚園の先生方は教育という立場に立つていられる關係上、先ず健康保育という教育の本質を明らかにしてから冬期に於ける健康の問題をのべてみたいと思う。ここで「健康の本質」或は「健康保育の本質」という問題を書こうと数ヶ月の紙面を割いてもらはねばならないからやめることにして、只少しばかり「健康の本質」の中で最重要である点を述べてから与えられた題にうつつてゆきたい。

幼稚園教育でよく聞くことは幼児の生活指導という言葉であるが、実際にはたして幼児の生活指導という事が行われているだろうかと思う時がある。遊戯、リズム運動、絵画等々では成程、最近は特に幼児の生活指導として目ざましい進展をみせて来たことは事実である、只々健康保育とか、観察とか人間関係の指導という点等ではどうで

あろうか、はたして幼児の生活指導という途がたどられているだろうか。一例をあげてみると先日も幼稚園で話題になつて私に質問された事であるが、『或先生が幼稚園の夏の健康保育に「夏は寢冷をするから昼も夜も腹巻をしろさい」と幼児を指導すると云われたがそれでよいですか』というのであつた。私はその時こう答えた、『それは腹巻は夜だけふとんからとび出て寝びえするからするのです、昼は腹巻なんかしてしていると汗をかいて腹巻のところの皮膚にあせもが出来て困りますよ、それだけでなく氣候の關係で昼間腹巻をすることは胃腸が過度に鬱熱状態になつて反つていけませんね』と。そして更に私はこう付け加えた『もつと幼稚園の先生は幼児身体の生理現象環境の医学的研究をせねばいけませんね』と云つておいた。

さて本論にかかりますが「健康の本質」という事は一体どういう事かということを通じてみたいが、其本質の一番大事なことをここでは少しばかりのべることにする。「健

康」とは生活の表現様相に名づけた言葉である、という事とが先ず第一に考えねばならない事である。そこでそれなら生活とは何かという事になる。生活とは主体(幼児)が環境(地域の自然と社会)との間の緊張關係に於て交互に起る刺戟と反応現象である。健康とは従来屢々考えられておつた様に単に体重が増すとか、顔色がよいとかという様ないくつもの条件の集合で片付けられるものではなくて、幼児とその環境との間に起る生活行動の表現様相の正常をさしていうのであつて、こうした体重の増加とか食欲の増進とか、いう事はその様相の一つであると考えねばならぬ。即生活行動の表現様相を觀て健康であるとか、どうも健康でないとかという言葉が出るわけである。ここで主体と環境との關係即幼児とその幼稚園の設備や自然の環境或は先生や友達との社会環境、更に其地域の自然環境(例えば氣候、地勢等)社会環境(社会家庭等)等との關係に於ける生活行動の表現を通じて健康への生活指導がなされなけ

ればならない事である。之が所謂健康保育である。

健康保育も絵画に於てなされつつある幼児の生活指導と同様に健康（主体と環境との関係に於ける生活行動の表現様相に立脚して）についての生活指導がなされなければならぬ。だから例えば健康保育に於ける手洗いの習慣養成ということにしても単に手を水につけるといふ事ではない。一人一人の生活を指導するという事でなくてはならない。どの幼児も皆一律な生活ではない、一人一人がその手のよこれ具合も異なり、手の動かし方は異っておる。一人一人に適した手の洗い方を指導するその時爪の事もみてやる。そして手は洗ったらきれいになる、洗ったけれどもまだ土がついている、もう一度きれいに洗いましたよという（むづかしい言葉でいえば判断を通してより高次への生活）様に考えさせること所謂僅か乍らも主体性にもとづく指導がなかつたら手洗いということは単なる器械的な事になってしまつて、今云つた様にしまいに

は手を一寸水につけて来たという手洗ひになつてしまふのである。

ここまで書いて来て、何とか少しは私の言いたい事も判つて下さつたことかと考えるが、ここで文部省の「指導要領の適当な環境を考へて」ということも「心身の発達を助長する」という二大眼目ははっきりして来ることになる。

そこで健康は「主体と環境」との間に起る生活の行動様相であるから何としても主体側としての幼児に就て先づ知つて置く事が第一条件である、絵画指導にしてもこの幼児はどんなに絵を通して自己表現をするかということが第一に知つておかねばならぬと同様にこの幼児はどういう生活表現をするかという行動の健康観察ということが第一である、それだから一方からいうと健康保育は幼児教育のすべての面に關聯をもつということになる。（例えば明石市立播陽幼稚園長内匠先生の絵画に於ける健康教育と云われる様に）。

幼児の生活観察ということは健康保育に

限らずあらゆる面で先づ最初になされることである。例えば徳島市立佐古幼稚園長板東先生の保育指導案の第一行目にはまづ幼児の生活観察をということがのつてある。幼児一人一人の體質的傾向——皮膚が弱いとか、胃腸が弱いとか、風邪を引き易いとか神経過敏であるとかということをお大體知つておかねばならぬ。或は生活習慣に就て家庭と連絡して食欲、便通等々に就て出来るだけ早く一人一人の幼児に就て知つておくことが生活指導の第一段階である。次は地域環境である。幼稚園の設備、友達との關係、地域の氣候、地勢、更に社會關係、家庭關係等について知らねばならない。ここで与えられた題の「冬期に於ける健康」に筆を移そう。

今迄述べた様に先づその幼稚園の建つてある所の冬の氣候に就て知らねばならぬ、何月の何日頃から温度はどうなる、湿度はどうなる、地勢上幼稚園は街の中央か、田園か、山か海辺かそれによつて風はどんなに吹くか等々について予め知つておく、そ

して社会環境として土地の状況、家庭の経済的、文化的面の程度も知っておく事が必要なことである。勿論幼稚園は冬期に対して適当な環境として設備されてあるかという事を検討しておかねばならぬ事は言うまでもない。一方では一人一人の幼児(主体)の体質、習慣、生活等についての観察によつて個人性を知っておかねばならない。

そこで幼児の冬の生活に於ける健康に就て述べることにするが、まず大抵の先生は冬の健康生活というと、厚着をしない、霜やけの予防、暖房の問題という様な事をとりあげる。人間の健康ということの本質を見究めないで肩が痛むから按摩膏を貼るといふ様な事では、いつ迄たつても健康人にはなれぬというのと同じで、例えば霜やけが出来たから手当をするとか予防の場合でもどの幼児もどの幼児も十把一からげという具合にはいかぬ。厚着をする習慣をつけないという事も同様である。勿論この様な事も大切であろう然しその一歩前に、霜やけの出来る理由、その一人一人の幼児の体

質と環境(その幼稚園のある土地の氣候)との關係を知っておかねばならない。幼児の家庭生活、幼児の体質等から霜やけになる素因を調べておいて、その地域の温度の下降によつて起る寒さ、湿度の低下によつて起る冷さについて考えて、次にその為幼稚園の設備は適当な環境であるかどうか、設備は冬の生活に良いかということも考えてそこに健康な生活を営ましめる様に生活を指導せねばならない。

厚着の問題にしても、皮膚の鍛錬は冬すゝるものではない、皮膚や粘膜の健康保育は夏にすることである、だから無闇矢鱈にどの幼児にも一様に厚着せぬ様になどと言う事にしたなら、或は幼児の中には風邪を引いて肺炎を起さぬとも限らぬ。温度が何度になればどうする、何度から下れば更に上から何かを着ねばならぬ、何度になったら採暖せねばならない。湿度が何%になると其時の温度と關係して口腔粘膜の注意が肝要だという様に、幼児(主体)と環境との關係に於ての生活を先ず考えてから冬の健康

問題を取扱わねばならない。

冬の健康は第一に幼児の消化器系統の教育を考えねばならない。偏食矯正ということも、正しい栄養をとる様にお母さんと相談をすること等も冬の季節にすることである。第二は皮膚、粘膜の保護である。ここで霜やけやひびあかぎれの予防も運動によつての血行を盛んにすることが基礎的問題である。ここに幼稚園に於ての冬の体育がある。そしてその環境の温度、湿度気流などを考えての防寒防冷である。例えば温度10°Cを下れば採暖すると一般に考えていても地域事情や湿度状況、気流關係を考えるときめねばならぬし、5°C近くなつたら暖房設備がなければ外套か何かを着たまま(厚着といわれるかも知れないが)保育をするとかう様にこうした事を先にしてその後いろいろな予防法を考えねばならぬ。

次に健康問題に就て大切な事は適応という事である。春から夏に教育した皮膚や粘膜が冬に向うと同時に次第に氣候に順応す

る様に考えてやらねばならない。人間の適応作用は夏よりも冬の方がより良いものであるから、個人性に気をつけ乍ら、薄着の習慣えと漸次に順応させてゆかねばならない。冬でも暖い日は薄く、寒冷の日は厚くという様に、一樣に厚着はしない様になどと考えないで、幼児の個人性、環境の変化に対する適応生活に基いて考えてやらねばならない。暖房にしても必要以上に暖くならない様に常に気をつけるということ、災害の起らぬ様に安全教育の面で充分保護や注意をすると同時に設備を十分に点検することは云う迄もない。

幼児期は保護の時代であるが又一面自主的の芽を育てなければならぬ時代である。

要するに冬の健康については、冬の幼児の生活（主体としての幼児と環境としての自然、社会との関聯という事の上）に立って考え乍ら生活の指導をすることに依つて幼児自身に自主的な芽ばえが伸びゆく様にせねばならない。其為には幼稚園の先生は一

方では幼児の身体に就ての研究、一面ではその地域環境についての調査を行い、その相關による幼児生活の実態を把握してその

健康への指導を行わねばならない。

（神戸大学教育学部教授）

— 文部省よりの幼稚園教育要領案 の発表について —

昭和29年10月12日より10月15日まで東京において、同じく9月28日より10月1日まで京都において、文部省の主催により開催された幼稚園教育研究集会において、参加各都道府県の代表者達に「幼稚園教育要領案」が配付され、説明があった。各代表者達は、これを各地方に持ち帰り検討することとなり、文部省でも、これを出来るだけ広く検討されることを望んでいる。

これは未だ原案にすぎないので既定のものと同視されることを恐れ本誌においては未だ全文は掲載しない。

▷ 幼稚園教育要領案目次 ◁

1. 教育の一般目標（省略）
2. 幼稚園の教育目標
3. 教育内容
(1) 健康 (2) 社会 (3) 自然 (4) 言語 (5)
音楽リズム (6) 絵画製作
4. 教育日時数（省略）
5. 教育課定の構成と運営（省略）
(1) 目標の設定 (2) 経験や活動の組織 (3) 年間計画と月
計画及び週計画 (4) 教育課程の評価
6. 指導と指導結果の評価（省略）
(1) 指導 (2) 指導結果の評価

フレーベル以後の幼稚園 (1)



津 守 真

幼稚園は現在世界中に普及している教育機関であり、社会の人々から受けいれられていく制度である。しかし幼稚園の発展したのとは比較的近年のことであり、その創始も古いことではない。周知のように、幼稚園運動は、ドイツのフレーベルに始まる。フレーベルは又、彼の幼児教育の思想をそれ以前の教育改革者達、即ちルソーやペスタロッチに負う所が大きいのであるが、それらの教育の先駆者達と同様に、フレーベルは当時の形式主義に墮した教育に対して一つの反叛を企てたのである。フレーベルの幼児教育の主張は、要約するならば、神性の所有者としての児童を一個の人格として認めること、教育は児童の創造性を啓発すべきものであること、教育の方法としては自発的活動を原理とすべきことである。また他にも彼はいろいろの理論を展開しているけれども、一応此の様に云うことが出来よう。そして彼はこれらの主張を、彼の考案した幼稚園(キングダーガルテン)を通して具体的に展開しようと試みたのである。フレーベル自身は、その生涯の中に彼の幼稚園が普及するのを見ずに終ってしまったのであるが、その後、彼の後継者達が世界中にフレーベルの幼稚園運動を普及させるために尽力し、その結果、幼稚園は幼児教育機関として社会から受けいられるようになったのである。

フレーベルの幼稚園創始までの事情は他の研究書にも詳しいので此処に詳述しない。フレーベル以後、幼稚園がいかんにして社会から受けいられるようになり、幼稚園の教育自体がこの間にどのような変化を遂げてきたか、そして現在の形の幼稚園になって来たか、

を私は眺めてみたいと思う。

世界中でフレイベルの幼稚園が最も普及したのは、アメリカと日本であると云う。始めフレイベル主義が全面的に受け入れられて、そしてそれが批判されて保育法が変革を遂げた点も似ている。相異点もいろいろある。根柢的な相異点は暫く措くとしても、例えば、日本においては私立幼稚園が全幼稚園の約六〇パーセントを占めているのに対して、アメリカでは私立幼稚園の占める比率は約一四パーセントで、八六パーセントまでは公立幼稚園である点、アメリカでは殆どすべての公立幼稚園は二部制保育をしている点、幼稚園対象児は五才児のみであって、それ以下をナースリースクールとしている点、日本の場合は幼稚園と保育所との二元制度のとられている点、アメリカでは幼稚園教諭の資格は小学校低学年までの資格を含む方向にあることなど。

日本の幼稚園はその発展の途上で屢々アメリカの影響を受けている。日本の幼稚園の歴史については、倉橋惣三氏の書物に詳しい。私はここでアメリカにおける幼稚園の発展の過程を中心として、フレイベル以後の幼稚園の変遷を見たいと思う。

米国における幼稚園の歴史は、一八五五年に一ドイツ婦人によってウォータータウン (Water town, Wis.) に最初の幼稚園の創られてから現在に至るまで、本年度で丁度百年になる。その間の発展は大略次の段階に分つことが出来る。

I 幼稚園創設期

- (1) 一八五五〜一八七〇 幼稚園が紹介され、導入された時期
- (2) 一八七〇〜一八八五 幼稚園が教育機関として一般から受け入れられ、普及した時期

II 公立学校系統への統合と保育法変革期

- (1) 一八八五〜一九一〇 幼稚園が公立学校系統に統合され始めた時期。幼稚園内部における危機の胚胎と保育法の論争
- (2) 一九一〇〜一九二五 進歩主義教育による幼稚園保育法の變革と、近代的幼稚園の基礎確立の時期

III 一九二五——近代的幼稚園の樹立。科学的方法による児童研究が幼稚園教育の推進力となった時期

フレイベル主義は、その後の幼稚園の発展の途上で、即ち上のII及びIIIの時期において、徹底的に批判された。徹底的過ぎる程に變革が行われた。これはフレイベルの主張の具体的展開の際の方法論に内在した誤謬からくる必然的な結果でもあったのであるが、他面、進歩主義者達が余りにも大きな勝利を占め、此の後幼稚園教育における心理主義の時代を現出することになった。此の傾向は技術的進歩を促したのであるが、心理主義だけでは教育の問題は解決されないのは当然である。幼稚園としての伝統と、新しく出発した児童心理学との交錯によって形成せられて来た近代的幼児教育の成立と現在動きつつある傾向まで辿って見たいと思う。

百年の歩みは短いようで長い。上に掲げた順序に従って述べてゆかなければならないので、時に迂遠屈屈な箇所のあることも免れ

ない。

第一章 米国における幼稚園の創始

幼稚園の紹介 一八五四年、英国の首都ロンドンにおいて、教育施設及び教材の国際展示会が行われた。ときの米国教育長官ヘンリー・バーナード (Henry Barnard) 博士は、米国代表としてロンドンを訪れた。バーナード博士は、幼稚園、キンダーガルテンについては、それまで名前すらきいていなかったのであるが、その展示会の中で、フレイベルの幼稚園の展示が強く彼の注意を惹いた。その展示会で彼が見た幼稚園のことについて、バーナード博士は彼自身の主幹するアメリカ教育雑誌第二巻(一八五六年)に次のように報告している。短い報告であるが、これがアメリカで幼稚園の紹介された最初のものであらうと思われる。

「一八五四年のロンドン教育展示会に出品されたものの中で、最も興味深く又最も教えられたものの一つは、ハンブルグのホフマン氏によって提示された、フリードリッヒ・フレイベル考案にかかる、廉価にして簡単な教材の見本であった。それは、既にヨーロッパの主要都市で紹介されているフレイベル氏の乳児園 (Infant Garden, キンダーガルテンの最初の英訳) の教育体系において用いられるものである。」(註一)

これは、フレイベルがマリユンタールで失意の中に没してから二年後のことであり、マレンホルツ・フォン・ビュロー夫人やその他の人々が、フレイベルの教育理念を普及させるために熱心な運動

を開始し、ヨーロッパ各地で講演をしたり、幼稚園を設立したりしていた頃である。

米国で発表された幼稚園に関する最初のもつた論説は、一八五九年の、クリスチャン・ユザミナー誌上に現われたものである。その中からここに一部分を引用してみよう。

「ドイツにおいて、政治の自由が、何度も何度も侵されている時に、他方、知的生活は、あらゆる形の科学や芸術の分野において発展し続けた。ドイツ人の知性には、我々は極めて多くのものを負っている。彼らによって聖書の解釈や神学の上にも多くの新しい光が投げかけられた。これら種々の知的生活の中で、教育も亦政府と国民の注目を惹いた。プロシアとザクソニーの公立学校制度は、その徹底度において、その広汎な適用範囲において、又その能率において他のいかなる国をも凌駕するであらう。此の国における高い知性と深い思想とを考える時、教育を人生の最初の出発点から開始し、子供の最初の知識に対する欲望からその最初の発達に至るまで、漸次に段階を追って指導しようとする新しい教育体系が現われたとて、何の不思議もなからう。幼稚園教育によって、高等学校、更に大学への道を固めなければならない。……パリには幼児教育普及会と称する協会が設立された。……有能な一アメリカ婦人が此の協会の会員となつて働いている。……我々は、此の国(アメリカ)の若い婦人達が、その制度をアメリカに紹介するために、その知識を得べく海を渡つて此の婦人と協力することを切望するものである。……我

マはアメリカの母親達が此の運動に對して熱意ある関心を払うことを希う。そして、フレーベルの愛唱の句、『いざや、我らの子らと共に生きんかな』に忠実であらんことを望むものである。(註二)

最初の幼稚園

実際に行われた最初の幼稚園は、一ドイツ婦人ミセス・カール・シュルツ (Mrs Carl Schurz) によつて一八五五年にウイスコンシン州のウォータータウンに開設されたものである。カール・シュルツ氏は當時のプロシアにおける政治的思想的压迫から逃れて、アメリカに政治的自由を求めて来た政治学者である。シュルツ夫人はドイツにいる頃、フレーベル自身の経営していた保母養成所において、幼稚園並びに保育法を学んだ経験があつた。そして彼らが北米の僻遠の地に移住した時に、自分達の子供の教育のために幼稚園を開設した。広大な土地にヨーロッパ各地から移住して来た人々が集つて出来ているのがアメリカであり、一八五〇年はアメリカに最初の大量の移民が行われた時期である。これらの第一世移民達はそれ々の生国の言葉を使用していたのであつて、最初の幼稚園も亦ドイツ語によつて行われていた。

シュルツ夫人は、フレーベル主義の教育が幼児教育として最善のものであることを信じており、フレーベル主義の方法に從つて教育を施した。此の最初の幼稚園については、これ以上詳しく知ることが出来ない。これに引きつづいて、アメリカの各地に、ドイツ人の手になる、ドイツ語のフレーベル主義幼稚園が設立されている。しかし乍ら、これらは何れも公衆の注目を惹くまでには至らなかつ

た。シュルツ夫人の幼稚園も、当時においては知られたものではなかつた。後年、盛んな幼稚園運動が展開するまでに、もう少し社会的機運が熟さねばならなかつた。それから、公衆の関心と興味を喚起する程の、力強い指導力を必要とした。幼稚園運動が開花するには、エリザベス・ビーボデイ女史の興味が幼稚園に向けられ、彼女の旺盛な精力が幼稚園運動に献げられるのを待たなければならなかつた。

初期の幼稚園運動は、その極めて多くのものを、偉大な指導者、エリザベス・ビーボデイ女史に負うている。ビーボデイ女史自身には時に幼児教育の体系というものは見出すことは出来ない。ただフレーベルの教育思想と幼稚園の考えに極めて強く賛同し、それを普及させるために大きな力となり、初期の幼稚園運動の推進力となつたことにその意義がある。初期の幼稚園にして何かの形で彼女の息吹がかかつていないものはない、と云つても過言ではあるまい。

エリザベス・ビーボデイと幼稚園運動については、私は本誌の昨年八月号に記したので、これは初期の幼稚園史上に開いた大輪の花のようなものであるが、こゝに重複する部分は避けよう。(註三)

ビーボデイ女史が英語による最初の幼稚園を、自分の家に開いたのは、一八六〇年である。時は恰も、アメリカの南北戦争の終つた時期であり、アメリカにおける近代工業がこれから勃興しようとしていた時である。新しい機運が各方面に動き、近代社会のアメリカがその活動を開始しようとしている時期に當る。ビーボデイ自身の

中にも新しい運動に献身する準備が整い、社会も奴隷解放運動に伴う人道主義の進展の機運、それに対する新機軸を受け入れようとする態勢が整ってきた。

これより先、ビーボディは偶然にウイスコンシンにシュルツ婦人を訪れ、その時に極めて明敏な六才位の子供と知り合つて、そのよく教育されていることに驚いたと云う。ビーボディ女史に尋ねられて、母親(カール・シュルツ夫人)は云つた。「あゝ、この子はドイツのクレーベル主義の幼稚園で教育を受けているのです。」(註四)先に掲げた、ヘンリー・バーナードの教育展示会における報告のあらわれたのも、それからクリスチャン・ユグザミナー誌上の幼稚園に関する論説のあらわれたのも、丁度この頃であつて、ビーボディはこれらにも目を通していたことは確かである。ビーボディ女史が幼稚園開設に先立つて幼稚園に関して知っていたことは、私の知る限りでは、これだけのものであらうと思う。これだけのヒントから何故彼女がかくも熱心な幼稚園運動にのり出したかを考えると、それは、どうしても、ビーボディの広い文化的教養と、彼女がニグロ解放、インディアン解放などに示したヒューマニズムとが理解されなければならず、又他方、幼稚園教育そのものの中に潜む、文化的香氣とヒューマニズムとが理解されなければならないのである。

正確に云うと、ビーボディ女史が自分の家に幼稚園を開いた年に先立つて、一八五九年に妹のタアリーが、一年前に夫のホラス・マーンを失つて、コンコードの自分の家に幼稚園らしきものを開いてい

た。それをビーボディ女史は、「殆ど幼稚園らしきもの」と云つてゐる。一八六一年に、ビーボディの幼稚園はピクニー・ストリート(Pikney street)に移され、ピクニー・ストリート・キンダーガルテンとして後に知られている。二人の妹達、即ち、ホラス・マン夫人と、ナタニユル・ホーソン夫人がその先生であつた。此の頃までに、ビーボディ女史は、フレールベルの主著「人の教育」を読んでいる。

註一 Barrard, H.: Report of London Exhibition, American Journal of Education, 1856, 2, 449—451

註二 Cheney, E. D. & Parsons, Q. T. A.: Kindergarten of Germany. The Christian Examiner, 1859, 313—339

註三 本誌五十三巻八号所載のビーボディに関する論説には、誌面の都合上、参考文献を載せられなかつたので、こゝに掲載しつゝおく。

Tharp, L. H.: The Peabody Sisters of Salem. Little Brown & Co. Boston, 1950, pp. 372.

Ferner, M. S. & Fishbourn, F.: Elizabeth Peabody and the Kindergarten. Journal of National Education Association, 1941, 275—276.

註四 Vande Walker, N. C.: The Kindergarten in American Education, 1908, Mc Millan, N. Y. pp. 274

定評のあるフレーベル館で!!



おさいくちょう



おどろぐばこ

昭和三十年度の新学用品が完成いたしました。昨年より一層よい出来栄えだと、自負いたしております。幼児なじみぶかい、くだもの花の観察をあわせ編集した出席カード、美しく楽しい装幀のおさいくちょう・じゆうがやぶ、内容を特に吟味したおりがみ・くれよんなど、いずれも幼児教育にはなくてはならないフレーベル館の新学用品です。なお、右のほか別記の通り、いろいろと取揃えてございます。お申込みは、フレーベル館または代理店へ!



じゆうがやぶ

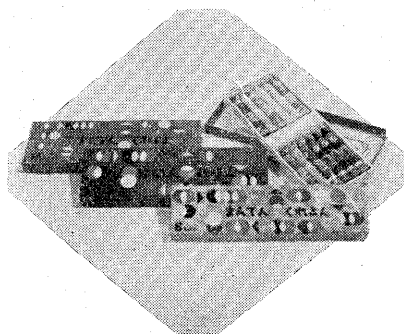
番	品	名
四七	園	籍簿(用紙)
七二	出	席簿(用紙)
四八	身	体検査表(用紙)
四五	保	育日誌(A)(用紙)
四六	保	育日誌(B)(用紙)
四一	幼	児指導要録(用紙)
五三	卒	園台帳(用紙)
四三	児	童票(用紙)
五六	保	育証書(大)(A)
五四	保	育証書(大)(B)
五七	保	育証書(小)
六二	賞	状用紙
五八	園	児募集ポスター(A)
五九	園	児募集ポスター(B)
六〇	園	児募集ポスター(C)
五〇	園	のたより
五一	つ	うえんブック

幼稚園・保育所の新学期用品は

番号	品名
七五	綴込表紙
一〇一	出席カード
一〇三	出席カード用貼紙
五五	保育料袋
一一九	おさいく帳(大)
一一八	おさいく帳(小)
一一一	ぬりえ(初級)
一一二	ぬりえ(上級)
一二五	自由画帳(特大)
一二六	自由画帳(A)
一二七	自由画帳(B)
一二八	自由画帳(C)
一六八	楽しいお仕事(No.1)
一六九	楽しいお仕事(No.2)
一六七	えあそび
七四	出席ゴム印
一六〇	はさみ



園児募集ポスター



まんてんくれよん

番号	品名
一三三	折紙(特製五寸)
一三二	折紙(特製四寸)
一三三	折紙(並製五寸)
一三四	折紙(並製四寸)
一七一	札名別組
一五五	まんてんくれよん 12色
一五六	まんてんくれよん 10色
一五七	まんてんくれよん 8色
一五八	お道具箱(木製)
一五九	お道具箱(紙製)
	赤色
	黄色
	緑色
	桃色
	白色
	藤色
	水色
	青色
	橙色

新しい年、昭和三十年を迎える。来るべき年の曙に当つて、先ず読者諸氏と共に、心を新たに、青空に杉の木立が伸びゆくように、幼児教育のすくすくと育ちゆくことを祈る。

来るべき年は、我が国にとつては内外共に多事多難の年であらうが、幼児教育界にとつても平坦な道ではなさそうである。保育室の内外共に、解決すべき問題が山積している。行政経営、管理の面において、又保育の内容において、幾多の困難な問題が横たわつている。

表面隆盛に見える保育界も、幾多の分裂と、解決されざる問題の山積によつて混沌としている。と云つては云い過ぎであらうか。よりよき社会と幼児教育の前途のために、純粋な努力を捧げる幼児教育の任に当る人々の努力によつて、いくらかでもよりよき方向に問題が解決されなければならぬ。本誌は保育界の諸問題

に關する各方面の意見と、保育の諸問題に關する忠実な研究によつて、我が保育界が更に一步前進するよう望んでいる。直接、間接に幼児教育に關係される方々から、意見と研究とを寄せられる様お願ひする。

編集後記

新年号に當つて、久松幼稚園の高間富子氏からは新築園舎の夢をめぐつて、武南高志氏から私立幼稚園界の抱負を、三木安正氏からは保育界における研究についての感想を伺つた。米國にお

ける幼稚園教育の全国大会に参加されての記事をよせられた黒田成子氏は、新しい幼児教育を専門に研究された新進の保育研究者である。久々で幼児の健康について執筆された竹村一氏は本誌の古い誌友である。

幼児の教育 第五十四卷 第一号

定価金五十円

昭和二十九年十二月二十五日印刷

昭和三十年一月一日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉橋惣三
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行人 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

発売所 株式会社 フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

○本誌御購読についての御注文は発売所
フレーベル館にお願ひ致します。